



道守通信

10周年
発足

記念号

この道をせんねんまえに歩いてた
ひとが見たかも知れない夕日



第9回みちづくLin熊本 (H24.10.26)



第10回みちづくLin長崎 (H25.11.1)



第1回みちづくLin熊本 (H16.10.15)



第8回みちづくLin佐賀 (H23.11.2)



第2回みちづくLin大分 (H17.10.6)



第7回みちづくLin九州 (H22.11.5)



第3回みちづくLin長崎 (H18.10.27)



第6回みちづくLin宮崎 (H21.10.23)



第5回みちづくLin鹿児島 (H20.11.28)



第4回みちづくLin福岡 (H19.12.8)

「道守九州会議」事務局

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

■(一社)九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りや、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より車優先社会は、人々の心から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。
さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



最優秀道守短歌
森川有さん



この道をせんねんまえに歩いてた
ひとが見たかも知れない夕日

新しい道へ第一歩 - 2004年2月25日 道守九州会議はスタートした -

CONTENTS

- 01 巻頭
たゆみない道守 10年の歩み
榑木 武(道守九州会議 代表世話人)
- 02 道守活動の10年
その軌跡と挑戦
道守九州会議10年のあゆみ
各県会議道守活動の10年と先進事例
- 18 みちづくしin長崎2013 ~人と道との新たな絆~
パブリックミーティング「道守10年の軌跡と展望」
- 25 道守人物伝
- 28 道守の未来を担う
- 32 道守九州会議 座談会
道守活動10年の歩みと今後の課題
- 39 紡がれていく縁を
喜安 和秀(国土交通省 九州地方整備局 道路部長)
- 40 道守九州会議の10年
森 将彦(道守九州会議 副代表世話人)

巻頭
榑木 武
TAKESHII CHISHAKI

たゆみない道守 10年の歩み

道路が人の往来に由来する言葉であるように、市民にとって、道路は最も基本的な社会基盤であり、不可欠だ。このため、血が通う道の整備や管理が望まれるが、少子高齢社会、広域的・国際的な交流が進む中で、そのすべてを行政に任せるのではなく、市民と行政がパートナーシップを組み、「道と人の新しい縁」を紡ぐことが大切だ。道路の建設や大改修、更新は行政と専門家に委ねるとしても、道路の点検、環境美化、利活用

は市民一人ひとりの役割である。つまり、九州では道路に関わる社会貢献、ボランティア活動をする人を道守と呼び、みんなで推進してきた。道路清掃、花植えや樹木の管理、道路の保守点検への協力、イベントなどによる活性化策の推進など。また、これらを通じた地域の人々の交流の活性化や意識改革、青少年教育への活用もある。
平成16年2月に道守九州会議が設立

大幅な改革や市町村合併、財源制度の変革があり、加えて政治のまずさもあり、ただただ市民は右往左往するのみのこともあった。一段と高齢化が進む中で、先行き不安、限界集落の危機もある。さらに、最近の異常気象や火山噴火などが活動を一層困難にしている。これまで経験したことがない大雨。時には身に危険が迫り、せつかくの美化活動や地域の環境改善が無に期すこともあった。しかし、元来九州人は打たれ強い性

な試練を乗り越え、さらなる前進をと決意し、道守10年の節目とする。
(道守九州会議代表世話人 榑木武)

自助の精神と結集を

され、引き続き各県会議が成立。市民、行政が一緒になり、互いの情報交換や共同作業、支援のもとに道守活動にまい進するものであった。社会貢献という大変な労苦を、57000人に及ぶ道守がよくぞこまめと、そのたゆみない努力や活動に頭が下がる。鹿児島、宮崎、熊本ではあの人たちが、長崎や佐賀では、福岡や北九州ではこの人々がと次々にその姿が浮かび、楽しい思いがあつた。

格があり、進取の気風に富む。困難に立ち向かい、強い自助の精神をかかげながら、その上に助け合いをベースにして市民が結集することこそが大切で、九州人の気質にあった行政とのパートナーシップに磨きをかけることが望まれる。
設立時に千年前の道守精神を現代に引き継いだことは、たゆみない道守活動にまい進することへの強いメッセージだ。様々



「道のボランティア活動等に関する意見交換会」2003年10月9日 福岡市



■プロフィール
昭和14年、福岡県生まれ。昭和37年九州大学工学部土木工学科卒業、工学博士。平成14年同大学を退官し、名誉教授となる。退官後は、道守九州会議の設立に貢献し、その代表世話人を務める。



道守

道守活動の10年その軌跡と挑戦

道守九州会議が発足して10年になる。それを記念した「みちづくしin長崎2013」は、その大会宣言にうたわれたように、人と道、その原点に戻り、新たな出発へ向かう決意が確認された。道守活動は活動そのものが「人と道」の在り方を考え、行動する起点となる。ボランティア活動が我が国に定着して20年になると言われるが、道を守る活動は、「道守」の言葉が万葉集に見られるように、1000年、いや、それ以上、長く続けられてきた活動であり、道守九州会議の10年はまだまだ第1歩を踏み出した程度のものかもしれない。が、同時にこれまでの道守活動の積み重ねがあり、今の社会にその必要が求められていたからこそ、道守九州会議が設立されたと言えるだろう。

平成16年に発足した道守九州会議は、地域の、小さな社会活動の九州の集合体として歩み始めた。各県会議が創られ、当初、1万人足らずだった会員は現在5万7000人を数える。会員ではなくとも道守活動を黙々と続けておられる方々はこれの数十倍になるのではないだろうか。その人々も含めて、道守九州会議は「道守さんの広場」の役割を果たしたいと願ってきた。

道守九州会議交流会

(みちづくし)

全体交流、意見交換・学習の場として設立当初から年一回各県持ち回りで開催してきた「みちづくし」。

2004年第一回目を熊本で開催し、大分、長崎、福岡、鹿児島、宮崎、九州、佐賀の順で開催してきた。

2013年11月、長崎会場で10回目を迎えた。みちづくしを通して、各県の参加者は意見・情報交換をし合うなどして、道守同士の交流を深めてきた。

道守九州会議 10年のあゆみ

2003年10月9日	「道づくり従事者」意見交換会 「道守九州会議」設立準備
2004年2月25日	道守九州会議設立
2004年2月25日	「道守九州会議 設立総会」を開催
2004年2月25日	道守通信創刊
2004年3月11日	道守くまもと会議設立
2004年3月25日	道守大分会議設立
2004年6月28日	道守みやざき会議設立
2004年7月5日	道守佐賀会議設立
2004年7月7日	道守かごしま会議設立
2004年8月28日	道守長崎会議設立
2004年10月15日-16日	みちづくしin熊本2004
2005年3月23日	道守ふくおか会議設立
2005年10月6日-7日	みちづくしin大分2005
2006年10月27日-28日	みちづくしin長崎2006
2007年12月8日-9日	みちづくしin福岡2007
2008年11月28日-29日	みちづくしin鹿児島2008
2009年10月23日-24日	みちづくしin宮崎2009
2009年3月1日	会員数5万人を超える
2010年11月5日-6日	みちづくしin九州2010
2011年11月2日-3日	みちづくしin佐賀2011
2012年10月26日-27日	みちづくしin熊本2012
2013年11月1日-2日	みちづくしin長崎2013

易に聞こえるが、行動に移すと決してやさしくはない。道に散乱しているゴミ一つ拾う、路傍の花壇の雑草を抜き、花を植えるささやかな行動さえ、実際となるとなかなか難しい。車からの、ゴミのポイ捨て、中には家庭ごみを植栽の中に投げ入れる不心得者のなんと多いことか。だから道守の継続が必要だし、一緒に活動する仲間も必要だ。

車社会になって、道は自動車の専有物になつてしまった感があった。道守九州会議の設立趣意書に書かれたように「人と道が遠く離れてしまった」のだ。かつて地域の道を掃除するのは子供たちの当たり前の役目であり、家々は自宅前に花壇や鉢植えを置いて「美化」していた。道が車の突っ走る危険な場所となり、清掃や植栽・美化は「行政」の責任となり、住民は苦情を言うだけの「クレイマー」であればよかった。それは欧米でも同じ現象で、道々にポイ捨て禁止と重い罰金を書いた看板が立てられている。

そんな現状に心を痛めた人々が、「出来る人が、出来ることを」と、いざ道守活動を始めようとしても、危ないし、道具もなければ、集めたゴミを運ぶ場所も手立てもない。花を植えるようにも苗の調達、水やりなどその管理はどうするか。九州会議

の設立はそのような様々な悩みを解決する道はないか、という切実な思いが重なり合つて実現したものだった。悩みや抱えている問題を語り合い、解決策を相談する「広場」が求められていたのだ。何より、仲間を知り、励まし合う「広場」となった。そこは行政の方々も積極的に参加し、相談に乗り、自らも活動に加わる貴重な「広場」ともなった。行政と住民の協働の場をつくりだすことが出来たのである。道という、人々、地域にとつて魅力ある社会を維持発展させる重要な設備・装置(社会資本)を「みんなのもの」と意識、行動する、官と民が共有しようとする、今社会が求められている大きな課題「新しい公」への小さな一歩となる可能性を持っているのではないだろうか。

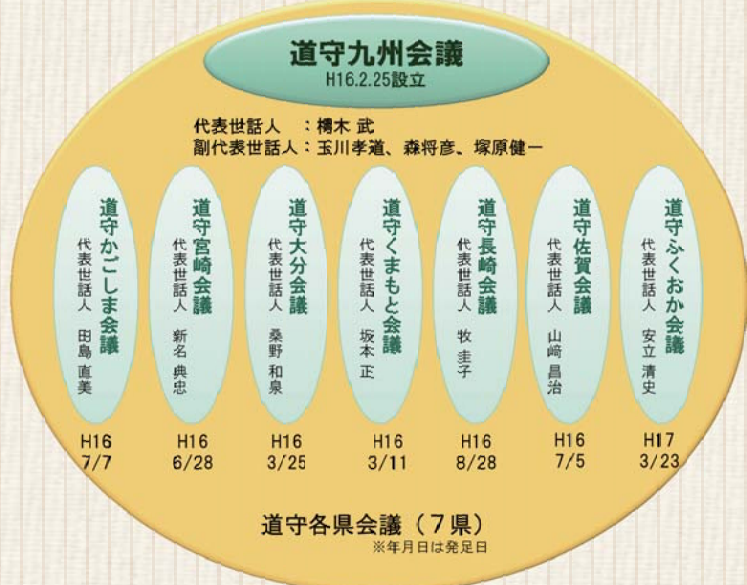
我が国の街と文化は「道」で形なされ、欧米では「広場」だと言われる。長崎の大会宣言が「美しいまちづくりを次世代の子供たちに継承し、新たな伝統づくりに取り組む」決意を盛り込んだように、道守活動は、自分の暮らしを愛し、より美しく豊かにしたいという願いが込められている。

毎年の「みちづくし」大会で披露される子供たちの活動報告ほど集まった九州の道守さんたちの心を奮立たせるものはない。彼らの道守活動は、たばこや空き缶をポイ捨てる大人への警鐘であり「ポイ捨てる大人になりたくない」と言う発言ほど、心を刺すものはない。この子供た

ちなら、もつと心豊かな社会を創ることが出来るに違いない。

道守活動の10年、大分のマイツリー活動、長崎の小学生の「花苗育成」、宮崎の「官・民・企業三位一体」活動、福岡の川(掘割)と道の共同清掃など、各県で多様に、息の長い活動が続けられている。しかし、課題も山積している。道守九州会議と、各県会議の「道守活動の10年」の軌跡を振り返り、同時にユニークな「先行事例」となる活動を紹介してもらった。

九州の道守活動が、より多彩に、より活発に、より多くの人が参加し、次世代に引き継がれてゆくよう、一歩一歩歩を進めましょう。



第1回みちづくしin熊本 (H16.10.15)



第2回みちづくしin大分 (H17.10.6)



第3回みちづくしin長崎 (H18.10.27)



第4回みちづくしin福岡 (H19.12.8)



第5回みちづくしin鹿児島 (H20.11.28)



第6回みちづくしin宮崎 (H21.10.23)



第7回みちづくしin九州 (H22.11.5)



第8回みちづくしin佐賀 (H23.11.2)



第9回みちづくしin熊本 (H24.10.26)



第10回みちづくしin長崎 (H25.11.1)

道守ふくおか会議

道守ふくおか会議は九州七県最後の道守県会議として、2005年3月に発足し、会員は市民団体、個人、企業など145団体、約2万4000人(12月末現在)となっています。

道守ふくおか会議では主に福岡地区、北九州地区、福岡県南地区で活動しています。福岡地区では名島校区「花の架橋」実行委員会、ごみゼロ青春探検隊といったなどの道守団体と連携して名島橋や国道202号沿線の清掃を実施しています。最近では、警固中学校や赤坂小学校の生徒が国道202号線のけやき通りの清



道守ふくおか会議運営会議(H17.6)



北九州市道路サポーター総会(H25.2)
～Green bird・NPO道守長崎と意見交換～

できる人ができる事から

体が一緒に考えて決めていく新たな仕組みが始動しました。2011年からは北九州地区においても、道守団体間の情報交換及び共有のため、意見交換会を開催しています。

福岡県南地区では2004年8月に道守柳川ネットワーク、2006年1月に道守大川ネットワークが発足しました。道守柳川では「できる人ができることから」をモットーに勉強会や清掃活動を定期的に開催しており、柳川のイメージアップにもつながる活動となっています。



おおむた花街道プロジェクト(H25.11)

また、2013年11月に「おおむた花街道プロジェクト」を行うとともに道守おむたが新たに発足。多くの子供たちと活気あふれる活動を展開しています。

道守が発足した頃は、会員数も少なく、各団体がバラバラで情報共有や交流もありませんでした。しかし、道守活動、各地区で意見交換会、企業や行政と連携した活動、みちづくしでの交流を経て、徐々に「道守」という名前が地域に浸透しています。



福岡市名島橋の清掃活動をする名島校区花の架け橋実行委員会(H22.8.7)

掃を定期的に行うようになり、学生の間でも道守の輪が広がっています。また、はかた夢松原の会では福岡市の中心であり多くの人たちが訪れる国道道路の警固・天神地区で花いっぱい運動を進めており、九州大学・西日本短期大学の学生や地域住民の方々を巻き込みながら街をきれいにする意識を高めています。

北九州地区では北九州市道路サポーターが2005年10月に発足し、会員数は12団体から187団体と増え活動形態も多様化してきたことから、サポーター制度のあり方について、北九州市と活動団

道守活動の先進事例ーふくおかー

北九州市道路サポーターの会 市民一万人が市と「協働」

平成17年10月にスタートした北九州市道路サポーター制度は、市民と行政の協働によって、本市が維持管理する道路の道路清掃・美化や道路施設の点検・異状等の通報のボランティア活動を行う団体を市が支援するもので、支援内容は、清掃用具の支給・貸与、花苗の支給、ゴミの回収、散水栓の設置(夏期の水道料金など)です。

現在、193団体、約11,200名が活動しています。

平成25年度からは、北九州市道路サポーターの会として新たな仕組み(行政区ごと7つ)が始動。目的は、制度のあり方について活動団体の皆さんと一緒に考えて決めていくため、また、身近なところで活動団体同士の交流・連携を図るためです。

区会(各行政区ごと7つ)では、活発な意見交換が行われていますが、参加人数がまだ少ないです。今後は呼びかけや区会に関する情報発信により興味をもって



美化活動をする北九州市道路サポーター

もらい、参加人数の増加を目指していきたいと考えています。また、区会の代表者7名と市が集まる幹事会では、区会で行われた意見を検討した結果、散水栓の設置基準等を見直し、平成26年度から適用することになりました。

柳川『堀と道』クリーンアップ大作戦 郷土愛とおもてなしの心で

柳川市は、全国的に「水郷のまち」として知られています。市内には総延長930kmにも及ぶ堀割が張り巡り、なかでも旧城下町の堀割は川下りにも利用され多くの観光客の皆様にお楽しみいただいています。そして、この堀割の水を落とすて堀底を日光消毒し清掃する「水落ち」の習わしもまた、江戸時代から続く伝統行事であり、柳川の生活風景となっています。

この伝統行事は例年2月頃行われており、道守柳川ネットワークも、春の観光シーズンを迎える前の2月に清掃活動を実施しているという事で、道守と市が協力することになりました。こうして平成23年から始まったのが、柳川『堀と道』クリーンアップ大作戦です。堀と道を一斉に清掃するというこの活動には、毎年2,000人以上の方々に参加いただいております。道守柳川ネットワークと市が「おもてなしの心」と「ふるさとへの愛着」を共通の思いとしてうまく連携することで、このよ



柳川『堀と道』クリーンアップ大作戦

道守佐賀会議

平成16年2月、『道と人との新しい縁を紡ぐ、一歩を踏み出そう』として九州道守会議が設立され、この時より個人々のボランティア活動だけでなくとどまらず、九州一円での絆でつながるボランティア団体としての活動がスタートしました。

当時は、道の清掃活動や道端の花植え、また道の歴史調査や道の啓発活動等、さまざまなボランティア団体が個別に活動されてきましたが、それぞれ手をつなぎ交流を深め「できる事からできる人たちで」をモットーとして、同年7月に道守佐賀会議を発足させました。



50周年記念橋フェスタin諸富橋・大川橋



官民一体となった道守体験（花植え体験）

未来につながる道へ

最初は、各地で開催されているイベントや道の駅などで道守のPRパネル展を開催し、平成17年には佐賀福岡をつなぐ橋の「50周年記念橋フェスタ」を企画実行しました。

さらに、佐賀の結束力を高め発展させるために、官民一体となった道守体験の定期活動として、花植え会・道の見学会・清掃作業などを多数実施しています。中でも平成23年11月に佐賀で催した「みちづくしin佐賀2011」道守交流会、「未来をひらくつながりの道」では、地域の方も

加わっていただき、子どもから大人まで幅広い人々が、おもてなしの心を持っていただくような計画をし、オープニングは佐賀で有名な面浮立の舞に始まり、休憩時は地元のお菓子(丸ボーロ、羊羹など)と嬉野のお茶で楽しんでいただき、私たちの「おもてなし精神」を、九州の道守の方々にも喜んでいただけたと思います。

その大会宣言として、『私たちは花を植え、ゴミを拾い、道を学び、道を守ってきました。これからは道が楽しめるよう、未来をひらくつながりの道として次の世代に伝えていきたいと思います』と唱え、佐賀会議が目

指しているところが伝わったかと思えます。また、発足当初から毎年「官民一体」となって実施してきたのが「佐賀城下ひなまつり、おもてなし清掃」です。

佐賀にお越しになる方々が気持ちよく散策できるように、ひなまつりイベントの開催前に、清掃活動をしています。回を重ねる毎に、子どもから大人まで参加者が大幅に増え、「清掃でおもてなし」が定着しています。

今後、一般の方々が道についての認識を深め、興味を持ち、ひいては街づくりの



きつかけづくりになるよう、今回2014年「ひなまつり清掃」では、参加者の道に対する自由な思いを布のキャンパスに書いていただく、「佐賀の道守巻物」に取り組み、道守の歩み、足跡を残していくこととしました。

この10年を期に、新たなスタートとなります。これからは、『新しいつながりを育て、輪をひろげよう』と、更なる展開を目指します。

道守活動の先進事例ーさがー

白砂青松の虹の松原

松原を守り、ファンを獲得

虹の松原は、佐賀県唐津市の唐津湾に沿って延長約4.5km、幅約500m、約100万本のクロマツからなる松原です。日本三大松原の一つに数えられ、国の特別名勝にも選ばれています。

松原内を東西に走る県道347号線は、昔から唐津街道として、人、物を運ぶ重要な道路として使われてきました。また、松が道路に覆いかぶさる様子から、松のトンネルとして、観光資源の一つにもなっています。

しかし、近年の生活様式の変化で松葉の採取が行われなくなったことから、林地が富栄養化し、広葉樹の侵入等が見られるようになりまし。白砂青松と言われ

てきた虹の松原の危機です。

この現状をなんとかしようと、地域の人々が立ち上がり定期的に松葉かき、清掃、除草などの再生・保全活動を行っています。さらに、より多くの方に再生・保全活動に参加して頂けるように、会社や市民グループなどに松原の一定区画を割り当て、親しみをもって活動をして頂いてい

ます。現在、157団体、約5,800名に活動をしていただけていますが、虹の松原の20%の広さでしかありません。

そこで、もっと多くの方に触れ親しんでもらえるように、植物、昆虫の観察会や、虹の松原フェスティバルなどを開催し、多くの松原ファンを獲得しようとしています。

私たちは、これからもずっと、白砂青松の虹の松原を目指して、地域の皆さまと一緒に里地としての松原を大切にしていきます。そして、人と自然が関わりあった健全ですばらしい自然環境を未来へ継承できるように努めていきます。



道守長崎会議

約10年前の平成16年8月28日に道守長崎会議設立総会が行われました。当時の阿野史子代表世話人は、「活動グループのネットワークをつくらせて活動を支援するとともに、道を守り育てることに心をもちたい。それが道をきれいにしていくことにつながる」と設立趣旨を述べています。

今では、毎年総会で情報交流を実施しており、地域活動を自慢する「道守屋台」も行っていきます(最近のみちづくしでの道守屋台は、長崎会議を参考としている)

《長崎地区》「花いっぱい&Xmasストリートプロジェクトinうまちか」



道守長崎会議総会での屋台 (H25.5.24)

通り名・マイツリー・子供らと

馬町地下歩道周辺のイメージアップを図るため、周辺地域の住民や子どもたちで地下歩道周辺を花で飾り、モミの木を装飾してクリスマスツリーづくりを行うイベントを行っている(平成17年から実施し、現在まで計9回実施)

《小浜地区》「小浜温泉で地域活性化」

小浜温泉57(宮田隆代表)では、国道57号とその沿線、県道・市道の環境美化を通じて、まちづくり、地域活性化へ取り組まれている(平成18年結成)。また、小浜温泉57では、ジャカラランダでまちおこしも取り組んでいます。

《諫早地区》

「通り名」とは、古くからいわれのある通りの名前を呼び起こし、通りに名前を



ジャカラランダを携帯で撮る観光客

付け、分かりやすい道案内を行うという取り組みを実施(平成20年)また、「通り名」を活用したイベントとして、「通り名でえべっさんを探せウォークラリー」イベントも行っていきます(平成22年、平成25年の2回)。

《大村地区》

国道34号大村拡幅事業の開通に伴い、官民協働で美しい道路空間づくりが進められ、マイツリー植樹式はその一環として道守長崎会議が主体となって進められました。

「マイツリー」は、街路樹に自分の名前などを記載したプレートをつけ、その木を大切に育て、街路樹の周辺を綺麗に清掃し、美しい街並みをつくる取り組み。

《西海地区》

「環境美化を考える会(田口昭子代)



大村マイツリー植樹式 (H21.3.21)

表」は、花植えなどの清掃・美化活動を年間100回以上行っています(平成11年結成し今年で15年目)。

この会は、町を美しくしたいという思いから地域住民100名以上がメンバーとなって、日々活動を行い、地域の方や企業・行政にも感謝されています。

西海市立大島東小学校では、総合的な学習の時間に小学校の教育方針の『地域と一体となった活動』である花苗育成活動を行っています(平成24年)。

《佐世保地区》

クローバー・ロード清掃隊は、佐世保市内の道路に携わる建設業者で結成したボランティアグループで、九十九島やハウステンボスを有する「観光の町 佐世保」の玄関口・佐世保駅周辺の清掃活動を緑色の帽子をトレードマークに行っています。



通り名イベント・ウォークラリー (H22.2.28)

道守活動の先進事例ーながさきー

西海市立大島東小学校と連携した『花苗育成』活動

2000個のポットに

長崎県西海市立大島東小学校で、小学校の教育方針の『地域と一体となった活動』が行われました。この活動は、『環境美化を考える会』が小学校と連携し、大島東小学校の児童や先生など総勢約50人で『花苗の種まき』を行いました。

今回、約2000個の黒いポットに丁寧にキンセンカや葉ボタンなどの種をまき、児童達には環境美化を考える会のメンバーがお世話を行い、育った花苗は、市内の他校などに提供できるよう計画しました。

約2000個の花苗は西海市立大島東小学校の児童達や大島町環境美化を考える会の道守メンバーの方々のお世話で元気に育ちました。

順調に育つまでには、強風の影響でポット苗を移動したり、植え替えしたり、日常からのお世話が絶えませんでした。大島東小学校の児童と道守(地域の方々)との協働作業で花苗たちも順調に育ちました。



稲佐小学校へ苗渡し

西海市立大島東小学校で種まきしたポット苗はすくすく育ち、約60km離れた長崎市稲佐小学校へと渡しました。

当日は、大島東小学校の児童達が、軽車両へ約300苗を積み込みました。

その日の夕方には、長崎市立稲佐小学校へ運ばれ、教頭先生に花苗と一緒に花苗への思いをつづった大島東小学校からの手紙も渡されました。

長崎市立稲佐小学校では花苗をプランターへ植え替え、小学校付近の稲佐公園へ移動し設置、お世話されました。



小学校への橋渡し、着実に

西海市立大島東小学校で『種から苗』へ育てた2000個のポット苗のうち、13

今回の活動の成果

① 花の種から花苗の育成で他校との交流(西海市大島東小学校・長崎市稲佐小学校)を実施
※大島東小学校は西海市内の幼・小・中学校にも花苗提供

② 稲佐小学校では身近な環境問題(ポイ捨て0作戦)への改善対策まで発展

今回のNPO法人道守長崎と小学校連携によって、次のことを指した。

- ① 美化活動を通じ、小学生が他地域との交流により「心の豊かさや喜び」を実感する取り組みにつながる。
- ② 美化活動を通じ、地域の人との交流を深め「地域を愛する心」と「感謝の気持ち」を養う。

◆ 児童の感想 ◆

- あつたつたけど楽しかったです。はやくめがでるとうれいす。さいた花をはやく見たいです。
- たねまきをして早く花がさいてほしいなあと思いました。キンセンカがほかの学校やどうろにうめられたらうれいす。
- いっぱいできてよかったです。ほくたがきれいにそだてたいと思います。

道守くまもと会議

道守くまもと会議は平成16年3月11日発足し、熊本県内の「道」に携わるNPOや市民団体、個人、企業などとネットワークを形成し、道の美化活動、愛護活動を行ってきました。①道路の美化・植栽②道路の清掃・愛護③道守活動の告知(街頭活動など)④歴史街道の顕彰(街道ウォークなど)⑤道の学習(道のフォーラムなど)を柱に、この10年間活動して参りました。

活動で道守の心を根付かせる

平成16年の道守くまもと会議発足当時から、道守花壇を運営。国道沿いのスペースに花壇を設け、1年を通して管理しています。35箇所の花壇が登録されていますが、高齢化などによる人手不足や管理代表者の転居などにより運営がストップしている箇所もある一方、熱心に作業して下さるたくさんボランティアのみなさんに支えられています。安定して苗代を確保したり、近隣の小中学校と連携して人手不足を解消することなどを模索中です。

要件を再確認し、安全できれいな道路づくりに関心を持つきっかけとなつてい

ます。

道守活動の告知としては、「みち祭り」と題したイベントを熊本市の中心部やショッピングモールで開催しました。子どもたちを対象とした道に関するクイズ大会やパネル展示などで様々な世代に道守活動をアピールしました。歴史街道の顕彰としてはNPO法人自然を愛する会(JOC)が主催する「参勤交代・九州横断(豊後街道)徒歩の旅」を毎年後援しています。このイベントは、小学3年生〜中学3年生までの子どもたちが大分から熊本

まで約125kmを徒歩で旅するイベントで、豊後街道を実際に旅する歴史体験学習、完歩への挑戦、集団生活や沿道の方々の交流がなされています。

「道のフォーラム」では講演を聞き、道守のメンバーをはじめ多くの方に交流の機会や活動の参考・見直しをする機会を作ることができました。

このように多岐にわたる活動を行うことで、小学生から高齢者まで世代を超えた会員が参加し、道を守る「道守の精神」が少しずつ根付き、道を守ろうという心が生まれ、地域を美しくしています。



道守花壇 — 35箇所が登録されている



道の日一斉清掃 — みんなでやればきれいになる



熊本みち祭り — 明るく楽しい道守活動



道のフォーラム — 街道について知識を深める

道守活動の先進事例 — くまもと —

おれんじ鉄道

自然も人情も豊かに

平成16年3月九州新幹線開業に伴い、JR鹿児島本線から分離され、熊本県八代から鹿児島県薩摩川内市を結ぶ肥薩おれんじ鉄道が開業してちょうど十年になります。この鉄道と並行に走る昔の街道が薩摩街道で、今は国道3号がそれにあたります。おれんじ鉄道ののんびりゆっくり走る車窓からは当時をしのばせる環境の橋や立札が見えたり。駅からちょっと足をのばすと、昔の面影をのこす町並がまだ残っていてタイムスリップしたようなつかしい気持ちになります。

務外に列車を利用して行っていました。梅雨時期等、段々と手入れが難しくなっていた折、昨夏、知り合いの特定郵便局長の方から駅清掃の申し出があり、今までに二回、熊本、鹿児島両県合わせて100名以上の方に無人駅をきれいに手入れして頂き、両県の新聞でも取り上げられました。

日本鉄道特別賞を受賞した「おれんじ食堂」も、走る自然も、人情も豊かな沿線を、これからも気持ちよく利用してもらえよう、地域の方々と連携しながら、守っていききたいと思います。

しかしこの沿線も少子高齢化がすすみ、空家、空地が増え、今まで手入れされていた庭が荒れ放題になっていたり、鉄道の名前の由来にもなっているみかんの木々が手入れする人がいままま放置されていたりと、この十年の間に車窓からの風景も少しずつ変わってきました。



利用者が気持ち良く(肥後二見駅)



「花いっぱいでおもてなし」活動(八代駅)



新幹線駅道守花壇でお出迎え(新八代駅)

道守大分会議

2004年3月25日、道守大分会議は、九州で2番目の各県会議として発足しました。当初から大分県代表として参画しておられた桑野和泉さん（現、由布院玉の湯社長）が代表世話人に就任され、今日に至っています。

全国初の別大マイツリー活動

道守大分会議の目玉は、「別大国道マイツリー活動」ですが、これは、当時の国交省大分河川国道事務所長の大家俊介氏の提案により、誕生したものです。別大国道の歩道部に植える街路樹のお世話を公募で集まったグループや個人にしていた「マイツリーシステム」は、直轄国道としては我が国初の試みでした。第1回の2004年に50本、第2回の2008年に25本、そして2012年には全線6車線化開通を記念して25本の街路樹が植栽され、合計100本のマイツリーが会員の手によってお世話されています。

毎年10月の第一土曜日に会員による一斉清掃と総会・意見交換会を開催し、昨



「うまく育つかな」気になるマイツリー

マイツリー活動を目玉に

年10月6日で10回目を数えました。史上最多のみちづくしin大分2005 2005年10月6日、「みちづくしin大分2005」が別府市をメイン会場として九州で2番目の「みちづくし」を開催されましたが、このときの実行委員会の情熱は物凄いものがあり、何と子ども分科会をはじめ6会場で分散開催するなどして、参加者は500名以上を数えました。現在に至るまで、この参加者数はみちづくし史上最多と伺っています。

女性パワー全開
道守大分会議の主要な活動団体を紹

介しましょう。「中九州横断道路の早期完成を願う会」（堀幸子会長）と「蒲江の道づくりを考える女性の会」（富高かをる会長）は、県南地域の道守活動を女性パワーで引っぱり、会を支えています。大分市には老人会「顕徳町デウスクラブ」があり、顕徳町付近の国道10号を毎年「道の日」（8月10日）前後の一日を充てて、大分河川国道事務所の職員と一緒に清掃美化活動に汗を流しています。民間企業では、特に大分銀行からは清掃時に着用するユニフォームを寄贈していただくなど、会員の



道守大分会議のユニフォーム着用でゴミ拾い



いろいろな業種の方々が集まって意見交換会

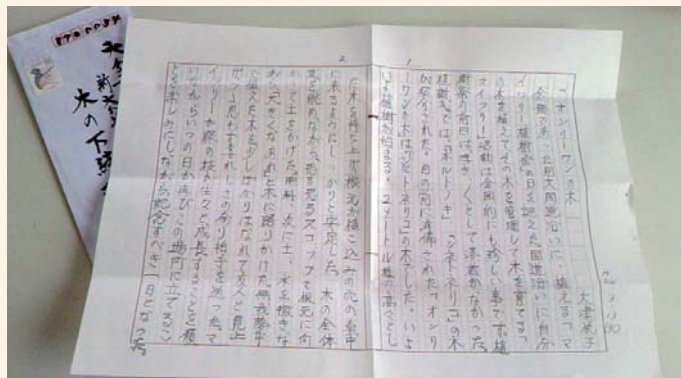
道守活動の先進事例ーおおいたー

道守大分会議 ブログ利用の情報提供



ー活動を記録、未来に伝えるー

どうすれば効率的な「情報提供」が出来るかー
平成19年から継続して取り組んでいる「ブログ」を利用した事例を紹介いたします。
平成18年ごろまでは、道守活動団体を紹介するために地元雑誌の見開きページに、毎月1団体を紹介するコーナーがあり、地道に活動している道守の情報を掲載していました。しかし、年々予算が限られる中で連載も打ち切りとなつてしまいました。
道守の活動を埋もれさせないためにできることは何か？と考え、まずはお金をかけずに、ブログで皆さんと繋がって「おこー」と立ち上げたのがきっかけです。
早速、nichimori.org(ng.org)の略称で非営利団体を表し、.com、.netと共に世界でよく使われているドメイン名ですと覚えやすいドメイン名を取得し、「道守大分」や「活動団体名」で検索にひっかかるように努めました。当初は、単純に道守の活動をできるだけ写真付きで掲載し、「こんなに素晴らしいことをやっている人たちがいるんだよ」と世に伝えました。続けていると、皆さんの方から積極的に活動報告や、お礼のお手紙などいただくようになりまし。その中には国交省に伝えなければならぬ改善点などご指摘いただいたり、情報の懸け橋役になることもあります。
年度別や、カテゴリで区分できるブログで綴っています。道守大分の活動記録を保存し、未来に伝達することを目的としたブログの役割は重要かと思えます。



活動で感じたことをお手紙や報告書でいただけます。



マイツリー清掃の取材風景

道守みやざき会議

道守みやざき会議は平成16年6月28日に25団体・総数約1436名でスタートし、今日では約80団体・総数約1万人の規模にまで発展してきました。当時の記録を読み返してみると「道路でのボランティア活動の安全確保をどうしていくか」、「南北に広い地理的条件から、中央だけではの設立ではなく、ブロックごとに活動したらよいのではないか」、「今までとは違



平成16年設立時会議 — 熱い議論が交わされた

うボランティア主体の社会形成を図り、共働という仕組みのルールを作っていくことが必要」等々、今現在の活動の基本的な点を見据えての熱い議論がなされることが、今日の活動の広がり大きく寄与しており、設立に関わられた皆様の先見の明に心から敬意を表したいと思えます。

三位一体で発展

各地の団体の皆さんや一人一人の活動がその一番の原動力です。道守みやざき会議では、そのような各地域の活動の負担にならないように地域の主体性を尊重し、ボランティアの輪を広げて仲間を増やしていくことを主旨として今日まで活動を続けてきました。

その中で道守活動を一般の地域住民の方々に理解してもらおうとともに道守活動そのものの普及のため、毎年10月に各団体へ呼びかけて行う「県内道守一斉活動」の実施や、各地で行ってきた意見交換会やシンポジウムをさらに発展させる形で地域住民の皆さんと共に道守体験を行い地域の自然や文化等に触れる「道守みやざき交流会」をブロックを持ちまわる形式で実施し、地域の活性化に向けた活動としての役割も見据えながら道守活動の輪を広げています。

課題となっている活動資金については、まず県央地区において花壇内にサポート企業等のプレートを設置する企業協賛による「橋通フラワーサポート・システム」を道路管理者(国・県・市)、交通管理者(警察)、屋外広告物担当部局(市)との理解ある協議により実現し、今後の広がりを期待しています。

活動を行う方々の高齢化・後継者問題についても「道守みやざき交流会」などを通じ人材発掘を図るとともに、今後の新しい取り組みとして道路利用者の交流拠点である「道の駅」を広報活動の場として

活用するため連携を深めていきたいと考えています。また、日本風景街道関係ルートとも引き続き連携を図っていきたく思います。

道守活動のゆるやかな繋がりをうまくつくっていくためには、情報の発信・共有と事務局機能の充実が不可欠です。そして、今後も三位一体(住民・行政・企業)の連携により道守活動のさらなる発展を心から願っています。

道守活動の先進事例 — みやざき —

道守みやざき会議

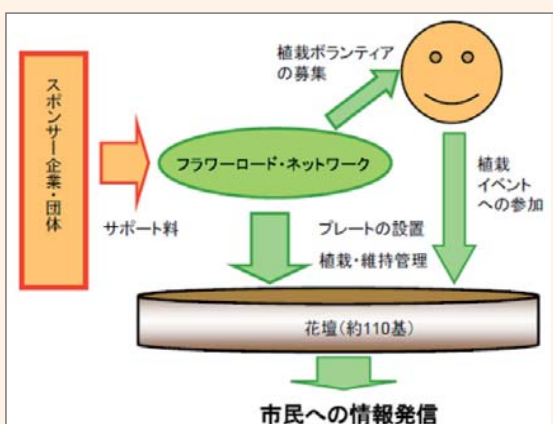
企業参加で持続的な取り組みに

宮崎市の橋通り(国道220号)では、毎年、道路を開放して、宮崎を代表する様々なイベントや祭りが開催され県内外の大勢の人々に賑わいます。春の「みやざき国際ストリート音楽祭」と秋の「宮崎神武大祭」の前には、橋通りを中心とする市街地において、市民参加型の地域にふさわしい美しい道づくりの取組みとして、そして訪れる人々を美しい花と緑で歓迎するための活動を展開。「みやざきフラワーロード・ネットワーク」(以下、「同団体」という。)が植栽ボランティアイベント「まちななフラワーパーク」を企画し、集まった多くの市民により道路沿いに設置された植栽帯(花壇)への花の植栽や歩道の清掃などが行われます。

「橋通フラワーサポート・システム」は、同団体と地元自治体が一体となり、花壇内に企業等のプレートを設置し、その協賛により植栽活動の自主財源を確保し「花のまちづくり」を推進するための取組みです。

行政等からの補助に左右されない持続的な取組体制を整備し、さらには企業や各種団体などの多様な主体が地域づくりに参画することを促すことで地域活性化に繋

げることを目的としています。各関係行政機関との調整のためつくられた連絡協議会での協議等を経て実施され、地元企業など約17団体(平成26年1月31日現在)が、その趣旨に賛同し参加しています。



橋通フラワーサポート・システムのイメージ



橋通りの花壇 — 企業プレートの設置



橋通りで行われる「宮崎神武大祭」パレード



「県内道守一斉活動」の開会式



花いっぱい — 「県内道守一斉活動」時の植栽活動



日南市南郷での「道守みやざき交流会2013」で行われたジャカラランダ植栽活動



花いっぱい — 「県内道守一斉活動」時の植栽活動

道守かごしま会議

道守かごしま会議は、「道に関わる活動をされる方々のネットワークの形成、情報交流の促進に寄与していこう」と平成16年7月7日に発足しました。

「道守」について県民の皆さんに知っていただくようと、パネル展や道守花植え体験事業等から始めました。パネル展では、少しずつでも理解を深めて

もらえるよう県内各地での実施や物産展とのコラボなど工夫しながら実施していききました。特に花植え体験は、子ども達の反応も良く、地域のコミュニケーションにも役立つと好評でした。「道守」を



道守花植え体験事業

道づくりを地域づくりにつなぐ

くようになって、良い刺激を受けています。座談会への参加がきっかけで道守に入会されるなど、少しずつですが着実に道守の輪が広がってきました。道づくりは地域づくりに繋がります。道をテーマに歴史、文化そして人づくりなど、それぞれの地域に根ざした活動の発展に期待しています。

地域づくりは観光とも深い関係がありますが、平成23年には新幹線全線開通に合わせて全国都市緑化かごしまフェアがあり、県内各地の地域団体や企業の皆さんが一生懸命花壇づくりに取り組みまし



道守かごしま座談会

知ってもらうだけでなく、子ども達の道路愛護の精神も大いに育むことができたと思います。

道守の活動の輪を広げるための取り組みとして、平成18年度に最初の「道守かごしま座談会」を行いました。回数を重ねるごとに道守会員の情報交換・研修の場としての役割も担うようになり、平成22年度からは、地域の道守会員が参加しやすいように4ブロック(北薩・大隅・鹿児島・南薩)で座談会を開催するようになり、地域のボランティアの方々にも参加いただ

た。期間中のフェア会場は花いっぱい、沢山の観光客にも楽しんでいただきました。道守かごしま会議でも、観光客が多く訪れる照国神社前交差点で桜やツツジの植樹や芝生の張替えを行いました。道づくりにおいて、花が占める役割は大きいものです。花は道に彩りを添え、目を楽しませます。しかし、四季折々の花を楽しんでもらうには、年に2〜4回の花植え(植え替え)だけでなく、水遣り、除草、堆肥など手間も知識も(愛情も!)必要です。また、花壇づくりの資金確保に



桜植樹を終えて

は、頭を悩ませる会員も多いようです。道づくりによって地

域が活性化し、地域が活性化すると、道づくりの人材や資金の確保も容易になります。今後も道守の輪と地域力が良い循環で巡るようお願いをしていきます。

道守活動の先進事例ーかごしまー

南九州市知覧 「灯籠みがき」

南九州市の、旧知覧町域には昭和56年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された武家屋敷群、更に先の大戦末期に本土最南端の特攻基地が置かれた飛行場跡に、「知覧特攻平和会館」を建設し当時の特攻隊員の遺書、遺影、遺品等の展示・保存をして、隊員の慰霊顕彰を行っています。旧知覧町では昭和初期から行われ80年



薩南工業高校生ー神社清掃から灯籠みがきへ

以上続いている「道路愛護作業」があります。毎年9月頃、自治会毎に日時を決めその周辺全ての国・県・市道、農道、里道、集落道及び地域内環境整備を行うものです。思いが伝わったかのように道守と平和学習、地域活動を一体化し永い間引き継がれてきた活動として、薩南工業高校生がボランティアで行っている「灯籠研ぎ」があります。1000基を超える灯籠を高校生が一基

平和の尊さ、慰霊の心

ずつ研いでいくものです。

取り組みの起源は、以前、毎週日曜日、薩南工業高校の寮生と特攻の母と言われた鳥浜トメさんが一緒になって平和観音堂と護国神社の境内清掃を行う伝統が永い間受け継がれていました。そのことを知った在校生たちが行う、灯籠の清掃活動実施へと広がっていきました。

知覧を訪れる修学旅行生たちがそれを耳にし、鎮魂の思いを込めて灯籠を研ぎ、慰霊の誠を捧げるような「体験活動」へと繋がっていくこととなりました。

地域の人々が自ら地域を守ろうとする思いで活動を始め、それを引き継ぐべき世

代が日常何気なく利用している道路施設へ目を向け、ボランティア活動へと繋げ、その裾野には平和尊さや命の重さを考えるべき心を育て、それが発展し訪れた同世代の生徒たちの心を動かし、同じ行動を起こさせる。これからも永く続けていきたい活動の一例です。



修学旅行生たちの「灯籠みがき」



修学旅行生の体験活動ー鎮魂の思いを込めて

みちづくし in 長崎2013

灯りの数だけ暮らしがある。 光の筋だけ道がある。



人と道との新たな絆



九州の道守が一堂に会する第10回「みちづくし in 長崎2013」が平成25年11月1日、2日に長崎市で開催され三百人が参加した。

みちづくし in 長崎2013開催へ陣頭指揮を取ってこられ、惜しまれつつ平成25年6月28日に亡くなられた、阿野史子氏への哀悼の意を表して黙祷をささげた。牧圭子実行委員長長の挨拶から始まり、榎木武道守九州会議代表世話人、喜安和秀九州地方整備局道路部長、石塚孝長崎県副知事、本田潔長崎市政建設局土木部長から挨拶をいただいた。

功労者表彰

- 道守ふくおか会議事務局長 佐伯 毅さん
- 道守佐賀会議事務局長 前津清美さん
- 道守長崎会議副代表世話人 田口昭子さん
- 道守くまもと会議事務局長 中村幸子さん
- 道守大分会議世話人 堀 幸子さん
- 道守みやざき会議世話人 日高 晃さん
- 道守かごしま会議世話人 福山征志さん

パブリックミーティング

- テーマ「道守10年の軌跡と展望」
- パネリスト
 - 道守ふくおか会議 酒井忠彬さん
 - 道守佐賀会議 大串好春さん
 - 道守くまもと会議 岡田敏代さん
 - 道守大分会議 桑野和泉さん
 - 道守みやざき会議 新名典忠さん
 - 道守かごしま会議 田島直美さん
 - 道守長崎会議 牧 圭子さん
 - 元国土交通省九州地方整備局長 岡本 博さん
 - コーディネーター 道守九州会議副代表世話人 玉川孝道

表彰

今回、10年目の節目にあたり、道守活動を長きにわたって牽引された方々の功績をたたえ感謝状が贈呈された。併せて、各県道守会議の功労者に表彰も行われた。

感謝状贈呈

- 元道守長崎会議事務局長 阿野史子さん
- 元国土交通省九州地方整備局長 岡本 博さん
- アサヒビル株式会社九州統括本部

活動報告

「地域とつながる花づくり、人づくり」をテーマに、平成24年度道守長崎会議が取り組んだ活動に参加した2校による活動報告が行われた。



大会宣言

最後に『人と道との新たな絆づくり』の大会宣言は、会場からの大きな拍手で確認された。

1. 長崎は400年前の鎖国の時代、西洋に開かれた唯一の街でした。この長崎から一条の光が、当時の暗い日本を照らし、そして広い世界から新たな空気を受け入れました。
2. そして今、この長崎には過去の歴史を重ねて、灯りの数だけ暮らしがあり、光の筋だけ道があります。そして私たちは本日の「10周年記念大会、みちづくし in 長崎2013」において道守活動の原点にもどり、人と道そして日本が誇る美しい自然環境との新たな絆・対話づくりに努めることを話し合いました。
3. これからも地域を愛し、美しいまちづくりを次世代の子どもたちに継承し、新たな伝統づくりに取り組むことを決意し、将来への勇気と希望を持って、ここに高らかに宣言します。

懇親会

グラバー園へ移動しての懇親会は、長崎市の夜景を堪能。総勢250人余りの道守が集まりました。

田口昭子副実行委員長からの挨拶に続き、岡本博阪神高速道路株式会社参加の乾杯のご発声、白水和広アサヒビル株式会社九州統括本部より挨拶をいただいた。会場には各県会議毎に活動の様子や特産品を展示するなど趣向をこらした「道守屋台」が設置された。法被姿や各種お揃いのジャンパーなどで地酒を振る舞う屋台もあり、盛り上げていた。参加者は食事をしながら見学したり、展示された酒や菓子などを賞味、日頃の苦労話や思い出話に花を咲かせた。

オープニング

アトラクションでは、日本三大くんちのひとつ、長崎くんちの代表的な奉納踊りである龍踊(じゃおどり)が披露され、長崎独特の郷土芸能に酔いしれた。またステージでは各県道守のPRタイムもあり会場を沸かせた。



道守長崎会議から来年の開催地である道守大分会議へ、榎木道守九州会議代表世話人及び喜安和秀九州地方整備局道路部長の立ち会いのもと大会旗が引き渡された。最後は今後の道守の発展を祈念し、喜安部長による万歳三唱で締めくくった。

現地体験学習会

【軍艦島上陸・周遊クルーズコース】近代化産業遺産群として世界遺産暫定リスト入りした「軍艦島」。そこは、ただの炭鉱の廃墟ではなく、大正から昭和30年頃まで高層住宅が建てられ、高度成長期の日本の歴史と人々の生活の物語がある。現在、無人島になった「軍艦島」の姿を間近で見学し、また、元島民でもありNPO法人「軍艦島を世界遺産にする会」理事長の坂本氏の案内で現地見学した。



丸山ぶらぶら思案橋コース

三味の音もとめて花街巡遊(さるく、丸山界隈) かつて江戸の吉原、京の島原と並ぶ、日本三大花街のひとつだった長崎の丸山。そこは、江戸時代から幕末、今に至るまでさまざまな出逢いの舞台であり、訪れる人々を温かくおもてなししてきた場所をさるくガイド(街歩きガイド)の案内のもと現地を散策した。





パブリック・ミーティング

道守10年の軌跡と展望



- パネリスト
- 道守ふくおか会議 酒井忠彬さん
 - 道守佐賀会議 大串好春さん
 - 道守くまもと会議 岡田敏代さん
 - 道守大分会議 桑野和泉さん
 - 道守みやざき会議 新名典忠さん
 - 道守かごしま会議 田島直美さん
 - 道守長崎会議 牧 圭子さん
 - 元国土交通省九州地方整備局長 岡本 博さん
- コーディネーター
道守九州会議副代表世話人 玉川孝道



玉川コーディネーター

玉川(コーディネーター) 道守九州会議が発足して10年。この「みちづくし in 長崎」の準備を続けてこられた阿野史子さんが突然亡くなられました。彼女の遺志はシンポジウム形式でなく「もっと多くのメンバーが議論に参加できる方式に変えられないか」でして、その結果18人の方々に発言をいた

5万7千人・道守結集へ

大きくという、進行役としては大変難しいミーティングになりました。ご協力をお願いします。まず、10年前の発足時のことですが当時、九州地方整備局の道路部長だった岡本さんが九州で道の清掃、美化運動を続けているメンバーに声をかけ、「今、どんな悩みを持っているか」「今後どう発

方々がどのようなことを感じておられるかを知ろうと、いいチャンスになると思いました。ガソリン税の問題などでボランティアの方々と接触するのにお金の支出が伴うのは無駄ではないかなどいろいろなことを言われましたが、九州地方整備局長として



新名典忠氏

私は3代目の代表世話人ですから、立上げ当時のことは詳しくはありませんが、宮崎では発足当

初からブロック組織を強化して行くことが強調されました。バラバラではだめだとか、高齢化して後継者がいないなどいろいろな課題が提起されています。先見の明があったといえます。肝心なことは、「三位一体」で活動を進めるという事でしょう。九州地方整備局の工事事務所、県や市の道路維持課などの行政、そして企業、地域住民がそれぞれの役割を担うことによって活発化するのがいいと思います。その好例としてフラワーサポートシステム、つまり花

すし、木を育てて行くプロセスで皆が繋がっていると思います。大分県内には風景街道が4ルート登録されていますがそれが地域を超えて人や行政、企業を結んでゆくというように確実に良くなっているとは私は思います。また、九州全体から、例えば災害などの場合、あの方はどうされているだろうと顔が浮かぶ。それは道守が持っている私たちの関係性の深まりだと思っています。

街道では6泊7日で300人近くの小学生が大分まで歩いています。もう36回にもなります、人とのふれあい、親子、地域とのふれあい、道の大切さ、文化、文明の歴史の大切さ身に着け、次代につないでいます。道守くまもとはこの10年間、非常に強いリーダーシップのもとにやってきて、道づくし大会も第1回と、九州を巡回して第2回と開催してきました。社会実験では企業から寄付金をいただき花壇を作つてその維持を図ろうとしています。企業側の事情もあり、いかに継続させていくかが大きなテーマとなっております。



酒井忠彬氏

伝では清掃のボランティアをやってきました。佐賀城下雛祭りおもてなし清掃も最初は少人数でしたが、今は小学生から家族ぐるみ、職場ぐるみで参加があり、150から160人になっており、佐賀のメイン活動にしようかと思っています。

植えなどの資金を広告看板で集めるなど最大の課題の「資金集め」システムも出来上ったのです。後継者づくりという意味では学生、子供たち、総合学習の活用。組織の強化という意味では、ブロック別の「道の駅」を拠点化、そこを中心としたブロック会議の開催をやっており、そこに巻き込んでゆくことによって活動、組織が充実して行くのかなと思っています。

この10年間道守活動は少しずつ良くなっている、形になっているという事は素晴らしいことです。なんでもそう急激には進みません。行政の皆さんも道路関係は頼りになる存在で仲間になって5年、10年と繋がってくれて、頼りになるし安心感もある。私は道守に感謝しています。

佐賀県基山では春、芝桜が美しい。その活動を続けておられる大串さん。

玉川 それでは、いろんなユニークな活動をされている大分の桑野さん。

玉川 岡田さんはオレンジ鉄道の駅長もおやりで、道路、鉄道の両方から道守についてお話を。



桑野和泉氏

道守大分会議では、竹田の堀さんは、蒲江の橋本さんはじめ先輩の女性方が素晴らしいんです。その揺るがない強さが私たちのよりどころになっています。共通の財産になっていくのが、別大国道の「マイツリー運動」で、住んでいるエリアを超えて活動できま



岡田敏代氏

鉄道も道路も人と物を運びますが、さらに情報、文化、歴史をいしえより繋いできたと思いま

女性の揺るがない強さこそ

4月になると咲き始めると思っています。J Rけやき台駅のすぐ横ですから、ちよっと見てもらつたらありがたいなと思います。佐賀会議で主体的にやっているのはパネルの展示や花植え体験学習、ひな祭り清掃事業、道の見学体験事業などを年1回やって、行政とも一体感が生まれています。地域ごとに言えば、バルーンフェスタ、唐津くんち、それに九州一周駅



大串好春氏

再度赴任した時「しっかりやって行こう」と。10年間いろんな波がありました。こうして5万7000人も道守さんがネットワークを作り、人との絆を強めながら活動する、本当に良い会になったと思います。

玉川 続いて、パネリストから発言をお願いします。まず鹿児島県の田島さん。私は平成7年から18年間花壇づくり、その草取りを年間50回ぐらいやっています。鹿児島ではこの10年でやっと組織が出来てきた。その組織づくりの歩みだつたように思います。



田島直美氏

総会にも出席者がなく、総会前にはメンバーに電話で出席をお願いして回り、また道守座談会を開いて新しい仲間を増やそうと。まだ県内をブロック分けして、コアになっていただく方々をつくるなどしてきて、やっとスタートラインに立ったなというのが実感です。

玉川 続いて宮崎の新名さん。宮崎は九州の道守さんのお手本になる活動を続けてこられました。

新名氏(道守みやざき会議・代表世話人) 私は3代目の代表世話人ですから、立上げ当時のことは詳しくはありませんが、宮崎では発足当

う気持ちになりますからね。
玉川 「仲良く続ける」という言葉がとても印象的でした。パネリストの締めくくりに発言として、長崎の牧さんお願いしま



牧圭子氏

牧氏(道守長崎会議・代表世話人)

長崎では5つのプロジェクトに分かれて、活動を続けてきました。まず長崎地区です。諏訪地下プロジェクトは、諏訪神社前の清掃もしています。諏訪地区では「通り名」を活用して、約100枚の名標識板を設置、「通り名でえべつさんを探せウォークラリー」を開催、街づくりをしています。大村地区では国道34号でのマイツリー運動。天の川という桜を植えています。西海地区の大島地区ではゴミ拾い、花植え清掃作業、除草作業、街路樹の選定作業を何と年100回もしておられます。また、ぼかしを使って堆肥化を進め、野菜作りを小、中学校で行い、次世代へ繋ぎたいとしています。雲仙では花壇の除草、花植えに園児や小学校、旅館の女将さんが参加、環境美化を通じて街おこし、活性化に取り組んでいます。長崎ではこれらの活動を、楽しく続けていきたい

■これからの課題

玉川 7県の代表の報告をいただきました。キーワード的に言いますと「人と人の繋がり」が道守5万7000人を作っています。その人たちが団体、地域、そして行政、企業とのつながりを作っている。その繋がりをもっと強化されなければなりません。もう一つは「活動資金」、お金集めをどうすればよいか。そしてこの活動を次世代の子供たちにどうつないでゆか。連携が横のつながりとなれば、これは縦のつながりになります。これらが、これからの

出来る人が出来ることから

道守活動を進めて行く鍵になると感じました。後半ではこれからの課題について話し合いたいと思います。まず、情報ですが、我々はアサヒビールさんご支援で「道守通信」という紙の情報で、ネットワークづくり、連携を強めてきました。その意味で、この支援に感謝しています。さて、一方で、情報伝達の方法が多様化して、ブログによる情報交換も登場しています。大分の木下さん、この新しい武器をどう使っているか、話してくださいませんか。

木ノ下氏(道守大分会議事務局)

大分でブログを始めたきっかけは、道守



山崎昌治氏

した。市と10団体で、掃除の日には市長さんも入って、あと、病院の先生とか会社の社長さんも



福山貞子氏

いて55名くらいでしょうか。福山氏(同副代表世話人) 2年前の佐賀大会で「未来を拓く繋がり」の道として次の時代に伝えて行き

「つ・な・が・る」に取組んで

物を作っています。参加者が白い布の巻物の縁に思いを書いてゆく。これからもこの縁と広がりを持って頑張りたいと思っています。

肥田氏(道守かごしま会議副代表世話人)

鹿屋市では4車線化された国道220



肥田真八郎氏

号の緑地帯に330mに渡ってバラを植えています。バラは手入れが大変で、除草、剪定は我々が



木ノ下結理氏

通信への原稿に載せる人を探してよ、ところが「紙面に載るようなことはして

来たり。たかがブログと言えどもー。お金はかかっておりません。

■連携について

玉川 宮崎ではFacebookを使った道路情報伝達の社会実験が行われました。これからどんどん進んでゆくのでしょうか。さて次の課題の「連携」についてです。柳川は掘割を蘇らせて有名ですが、道守活動が掘割清掃と結びついて、根を下ろし始めています。柳川の山田さん、お願いします。

山田氏(道守ふくおか会議世話人)

私たちは10年前から「出来る人が出来ることをやりましょう」と無理のない活動

■大学との連携

玉川 国も県も関心を持ってもらいたいのですが、何といても市町村・基礎自治体との連携が重要ですね。もう一つ、忘れてはならないのが、大学との連携です。長崎大学でユニークな試みが行われています。そこで、ご紹介いただきたいと思っています。また宮崎大学の取り組みもお願いします。森田氏(長崎大学准教授) 私どもが養成しています「道守」は道路の異常に気付く点検作業、それを通報している方々の養成です。一般市民の方々でも道守補助員と



森田千尋氏

副会長さんにも講義を聞いていただきました。この方々に点検シートを渡して、提出していただき、大学がまとめて自治体に修理の連絡をするというシステムです。現在まで300件の通報があり長崎の道路を見守っています。これを全国に広げたいと思っています。長崎大学道守で検索していただくとホームページが出てきます。



山田三代子氏

を続けてきました。行政と共働です。めるといって大変恵まれた状況が生まれました。柳川は観

光地で沢山の方がおいでになります。クリーンな柳川を楽しんでいただくよう清掃、草取りを始めたのですが、市がゴミ袋を提供していただきました。200袋、300袋になるんですね。その回収も行政の方でやっていただき、即、きれいになりました。柳川は掘割城下町ですから年に一回、水を落として濠を清掃するのです。これまで市がやっていたのですが、3年前から道は道守が、掘割は行政が分担してクリーンアップ大作戦という事でやるようになりました。

■資金をどう集めるか

牧氏 やっぱり皆さん、頭を悩まされているのが「活動資金」でした。何とかできないかと考え、NPO長崎を立ち上げました。そして社会実験をやってみようと道路植栽管理システムという社会実験に取り組みました。しかし1回限りではいけないと、継続的に出来ないかと、いま、やっているところなんです。



根岸裕孝氏

根岸氏(道守みやざき会議世話人)

今年で4回目になるのですが1月11日に日本風景街道大学で今年「つ・な・が・る」繋がる一で取り組んでゆこうと考えています。自然文化を繋ぐ、風景を繋ぐ、思いを繋ぐ、伝統文化を繋ぐ、風景街道を繋ぐ。「繋がる」という事は大変重要なことですね。講師陣は九大の榎木先生、筑波大学の石田先生他ゲスト講師をお招きして行っています。ぜひご参加ください。

■バラエティに富む取り組み

玉川 この10年間、道守活動はいろいろな挑戦をして、活動は広がりを見せ、バラエティにも富んできたと思います。その報告をお願いしたいと思います。

まず、熊本八代の岡田さんから。岡田氏 オレンジ鉄道は赤字路線でして

経営的には大変苦しい。乗客を増やす試みとして観光食堂列車をやりました。全国からおおいでになるのですが、皆さん「風景は素晴らしい、お花がたくさん咲いていますね」と。鉄道も道も一緒になって風景をきれいにして行く。東南アジアのお客様が増えていますので、向こうにない九州らしい風景をおもてなしの心を込めて、道守活動を次の段階に深めていけばいいんではないかと思っています。

玉川 7つ星に乘らなくても、美しい風景

道守 人物伝

がオレンジ鉄道で楽しめますから、まずオレンジ鉄道に乗っていただきたいですね。



堀幸子氏

堀氏(道守大分会議・世話人) 大分県竹田は熊本県との県境にあり、大分に入ってこられる皆さんに少しでも良い気持ちを持ってもら

いたいと道路の清掃、草刈り、ゴミ拾い、花植えを行っています。風景と言え、岡城ですから桜、紅葉以外の季節にも楽しんでいただくような花植えをしています。菅生小学校という50名足らずの学校がありますが、私たちと一緒に年3回ゴミ拾い活動をやってくれています。「あんなごみを捨てる大人にならないなあ」「きれいになってスキッとしました」などの感想が出ます。時々、大人には耳の痛い言葉もあります。私はこの活動を通じて子供たちが、道は使うだけではなく、道を使う人のことを考える、道を作ってくださいた



福山征志氏

ましたから、社会実験で2000ポットの容器を用意、子供たちに種を播かせた。水をやり、花を育て、それを他の10校にも配布しました。昨年から今年にかけて校庭を満開にすることが出来ました。先生方の理解を得て、種を取り、来年も花を咲かせようと。

福山氏(道守かごしま会議世話人) (4年生、10歳)というのをやっています。

地域・人々に根を張って

歩くことで先人の残した歴史、道のありがたさを学び、そして大人との絆を強める。彼らが大人になった時に継承してくれたらと思います。

■さらなる10年に向けて

玉川 パネリストの皆さんから、最後に、提言をいただきます。



田口昭子氏

ます。道守の私は、受け手である旅人達も、道守の精神が分かると、その人たちの日々の暮らし、その旅人達が何かを地域に残して行けるような、そういう段階の10年が始まってくれることを期待しています。

町を花で飾りたいという気持ちがあり

酒井氏 二つ提案があります。一般国道2

新名氏 道守活動を地域に伝える、広く伝える持続する志のもと、道の駅を拠点とした連携を図って行きたいと思っています。もう一つ、今、市街地で「Beeproject」をやっています。ミツバチの蜜元である花を増やす。そして蜜で財源を増やし、それをまた植栽の財源にする一石二鳥を、三鳥をめざしたいと。

田島氏 子供たちを取り込んだ道守活動がしたい。それと私たちが頑張っても行政やその他の分野での情報をいただかないと大きく発展できないと思っています。協働ネットワークが基本です。頑張ってくださいと思います。

玉川 最後に岡本さん、お願いします。

岡本氏 道守活動が力強く、ますます発展して行くことが感じられ、本当に心強く思いました。私は三〇年間道路づくりに携わってきましたが、道路をこのように丁寧に使い、愛し、きれいにしていきたいという人がおられることに感動します。皆さんの活動の発展の様子、本当におめでとうございませう。

玉川 長い時間に渡って、いろんな活動、体験の発表、これからの10年の道筋への意見、決意をうかがいました。これまでの10年で道守活動は広がり、深まり、多くの人のつながりの中で、その歩みは決して小さくないと思えました。自信を持ってよいのではないのでしょうか。この活動はじっくり腰を落ち着けて、地域の中に、人々の中に根を張って行く活動であろうと思います。慌てることも、急ぐこともありません、着実な歩みを重ねて次の時代へひき継いで行きます。この後、長崎の子供たちの道守活動の報告があります。いつも感動させられるのですが、その報告をもって、道守活動のこれからの10年への出発、そして今回の大会の締めとしたいと思います。

しなやかに、楽しく、集う



元道守長崎会議代表世話人 阿野史子氏

NPO法人道守長崎の前理事長で道守九州会議や長崎会議の発足に尽力された阿野さんは、平成25年6月に逝去されました。彼女は、道守を心から愛し、楽しみ、たくさんの仲間と共に活動の場を拓き、その功績は言葉に尽くせない程偉大です。

平成15年3月、ルート34ワークショッの代表として、県庁前から蛭茶屋までの国道34号において、学生や地域住民、障害者や若い母親を巻き込んで道路状況や景観などを調査し、県や市、国土交通省に提言され、今ではその提言が実現し、継続されています。

その後、道守九州会議発足の準備会メンバーとして関わられ、長崎会議を立ち上げ、長崎会議がスムーズに運営できるようにNPO道守長崎として発展させられました。

阿野さんの信念は、「しなやかに楽しく、誰でも参加できるような窓口を広く」でした。また、「長崎は観光都市、住む人が誇りに思える街、訪れた人が感動する街で、おもてなしの心を持って迎えたい」が口癖でした。いつも他の会議の見本となる取り組みを実践し、そのノウハウを提供するなどみちづくり、まちづくり、人づくりに邁進されました。

出島の入り口にある阿野さんのペンションにはたくさんの人が集まり、輪ができて、そこに集まった多くの友達をつないでネットワークをつくり、様々な情報交流の場を提供されました。中には深夜まで笑顔とお酒につきあわされた方も数知れないことでしょう。

阿野さんのご冥福を祈り、九州道守会議も阿野さんの信念を胸に発展していきたいものです。

道守会議の井戸掘り人



元国土交通省九州地方整備局長 岡本博氏

道守九州会議の「井戸掘り人」と誰もが認める人だ。国交省・九州地方整備局の道路部長として就任、九州の道路清掃や美化活動を地道に続けている人びとに集まってもらい、意見を聞く会合を開いた。掃除用具の話、けがをしたときの保険の話、花の苗の調達方法など、幾つもの悩みや意見が出され、にぎやかな会議となった。それまでばらばらで、孤立していた人々やグループが初めて「九州の仲間」を見つけた会合だった。

「このまま一回限りの会議で終わるのはもったいない。そんな声がみんなの口から一斉に出た。「九州会議を創ろう」。岡本さんは行動の人だ。すぐ設立に向かって動き始め、翌年の平成16年には設立会議を開き、「道守九州会議」を発足させ、各県会議も創る。岡本さんは表面には出ないが、全てを「ちやくちやくと進める」演出者だった。

道守会議だけではない。その「ちやくちやくプロジェクト」と名付けた道路工事の進捗具合、完工時期を一般に明示する施策や、風景街道活動では小駐車場とビューポイントを組み合わせた「トルパ」と名付けた写真を撮る絶景の場所の設置、さらには「通り名までアイデアが次々と湧いて、それを実現した。

その後、九州地方整備局長、国土地理院長を歴任、院長時代は東日本大震災に遭遇、日本列島の動きを国民に分かりやすく情報発信、地味な存在だった国土地理院の名前をたからしめた。九州の道守さんたちが親しみを感じ、愛されている。趣味はゴルフ。天才的な腕前ではないが、熱中している。

まちを花でいっぱいにする



道守おおむた代表世話人 山口時彦氏

道守おおむたとして初の取組となる、「花街道プロジェクト」を昨年11月24日に実施し、国道208号沿線約1.2kmにノースポールの花を約4千本植えました。

今回は、活動資金が少なかったことから苗の購入は断念し、種から育てることになりました。9月下旬に種を蒔き、いつ頃定植できるようになるのか分からないなか、イベント実施日も未定のままの見切り発車でプロジェクトを開始。イベント開催日を決してから、これまでの有志による活動とは違い、人員確保のため、沿線住民や企業、近隣の小中学校への協力依頼を行うなど、初めての経験ばかりでした。

当日は約150人の皆さまに参加いただき、盛況のうちイベントを実施することができました。今回の経験を通じて思ったことは、おもてなしの心は、「人を育てる」。それぞれがみんなのために自分から動けば、いい街になるということです。

これからも、「できる人が、できる事を、できる時に」を合言葉に継続した活動にしていきたいと思えます。



有明海の再生を目指して



有明の海を守る
ふれあいの会副会長
徳永一雄さん

佐賀

平成10年頃、有明海のノリ養殖、二枚貝、ムツゴロウ等の魚貝類の生態系に異変が顕著に表れて来た。そこで、有明海に注ぐ六角川上流に位置する多久で、キーワードを、「有明海の再生 豊かな海は、豊かな森と川がはぐくんできている」として賛同する者10名程度で会を立ち上げ、海山の交流等を中心とした、水環境フェア・川のワークショップ・天山から有明海までの河川清掃を行った。

平成14年1月には、国道203号東多久バイパスの南側法面と上部ボタ山に植林を計画し、許認可、資金集めに苦労したが、九電の10年間、100万本植樹事業の助成を受け同年3月に第一回植友祭が実現しました。当日は、多久、小城の小中学生・父兄・住民・国交省・市長・九電・各企業ボランティアで約800人を超す参加者で盛大に実行出来ました。

その後も多久・小城のボタ山空地等の植林や、下草刈りを行いながら豊かな森を守っています。また、多久市そうじの会様の道路清掃や花壇の花植え及び道守佐賀会議の世話人として活動を続けています。



ジャガランダでまちおこし



小浜温泉57代表
宮田隆さん

長崎

「小浜温泉57」の代表として、小浜温泉街を美しくしてお客様を迎えるため、国道57号をはじめ周辺道路の清掃や花植活動などの環境美化活動を柱に小浜温泉街を活性化させる様々な活動に取り組んでいる。また個人的に平成18年頃からほぼ毎日、健康促進も兼ねて温泉街の歩道約1kmの清掃活動を行っている。このような活動が認められ国土交通行政功労表彰(H21)県知事表彰(H24)雲仙市表彰(H25)、九州地方整備局表彰(H25)を受賞したことで「小浜温泉57」の活動にも弾みが付いた。

昨年夏、3ヶ月間の世界一周・ピースボート・被爆者証言の航海を体験した。寄港地19カ国、地元住民約2千人との平和交流は老いの身には特に心に重く、しかし将来の子ども、孫達への夢と希望がつのる貴重な世界一周の旅であった。

今、世界は新しい風が吹く。平和への熱い想い。地球環境への責任と行動。行政と民間の協働。自分たちの街は自分たちでつくる。

小浜温泉街のジャカランダ通りは今も初夏には可憐な紫の花が住民と観光客の心を癒してくれる。世界3大花木の一つである「ジャカランダで街おこし」この六月、小浜町・日南市・熱海市そしてポルトガル国と「ジャカランダ・世界サミット」を開催し環境問題について問いたい。「小浜温泉57」の活動を今後も継続、発展させ小浜温泉街の活性化に貢献していきたい。



森を育て、並木を守る

並木街道守るボランティアの会代表

熊本
黒木嘉次郎さん

私は70歳で退職した後、自然と社会に対して少しでも役立ちたいという夢を持ち、2つの活動を始めた。

1つ目は熊本市の水をまかなう地下水を育むための活動です。

平成17年に仲間と「水源の森ボランティアネットワーク」を結成し、阿蘇外輪山などに4千本の落葉樹を植栽し、下草刈りを続けています。

2つ目は並木街道を守り育てる活動です。私の住む地域を通る豊後街道沿いには、加藤清正の時代から植え継がれている杉と細川藩預けとなった赤穂浪士が贈ったハゼの木が平行して植わっています。この貴重な木々が枯れたり、弱ったりしているのを目にして、平成14年に「街道並木樹を守り育てるボランティアの会」を立ち上げました。(現在は「並木街道守るボランティアの会」に改名)。現在は地元住民約45名で活動しており、保護・育成並木は400本以上、アジサイ20株以上です。

近年、高齢者の社会貢献活動の必要性が注目されていますが、

このような活動は心身の健康維持に役立っていると実感しています。



人の気配を感じる景観に

みちもりをあきらめない会

宮崎
矢野初美さん

真夜中10時〜12時、「いつてくるわ」と寒空の下、防着にヘッドライト、手にはゴム銃と石ころを持って出かけていく主人に「はいはい、よろしくいってね。」と送り出す私、こんな生活が3年近く続いています。

国道326号線沿いの寝静まった小さな集落に変なおじさんの姿は奇怪ですが、今のところ挙動不審者出没通報もされず地域住民も知ってか知らずか。しかし田畑を荒らしに来る鹿にとっては大変危険な人物といえます。ヘッドライトで目を確認し、ゴム銃で威嚇するのですが、たまに痛目にあうらしく悲鳴をあげて逃げるそうです。今では作物の被害がなくなりました。休耕地とはいえ先代から受け継いだ土地を鹿や猪の遊び場に提供しないために草刈りに精を出し、人の気配を感じられる景観を保ちたいと頑張っています。

もみじが大好きで88カ所のお大師様が祭られている真山のおだいっさん山をもみじ一色にしたいと他人名義の山々をながめながら夢を描いています。

地区存続の運営に不安を感じながらの日々、今後も様々な活動に目を向け、共有できる仲間を増やし、共に仲良く

楽しいと感じられる活動に繋げていきたいと思えます。



きれいなまちは、きれいな心から



自主的な清掃活動を続ける
阿部雄一さん

大分

大分市では、市民協働による「日本一きれいなまちづくり」を推進するため、全市一斉清掃活動を実施しています。

阿部さんは、平成17年に実施した「ギネスに挑戦・全市いっせいごみ拾い大作戦」以降、不定期ですが、自主的に美化活動を続けています。

主に、大分駅南口(上野の森)側の市民が集い憩う公共施設ホルトホール大分近辺の道路や施設周りの浄化・美化を心掛けています。『かつて駅裏と呼ばれ、寂れていたこの地区が再開発によってにぎわいが増してきました。平成27年春には新大分駅ビルもオープンします。新しい景観には、きれいな心でもてなしをしたい』と話してくれました。大きく変革している大分市には、市民ボランティアの意識の高さがあることを教えていただきました。



地域をまるごと博物館に

JR九州宮ヶ浜駅名誉駅長

鹿児島
上野秀一さん

私が宮ヶ浜自治公民館長をしていた時に、地域の方々と宮ヶ浜駅美化活動を行っていた縁で名誉駅長を拝命し、現在もJRと連携して美しい景観を守っています。

宮ヶ浜地区は、JRの指宿駅より2駅鹿児島寄りの宮ヶ浜駅を中心とした地区で、JRと共に国道226号も縦断しています。

宮ヶ浜地区が「指宿発祥の地」ということを知らない人が多いようですが、実は、歴史遺産が多く残る伝統ある地区で、明治・大正にかけての古い商家群は現在も当時の姿をよく留めています。また、錦江湾を懐に桜島・大隅半島・知林ヶ島が一望できる実に綺麗な場所です。雄大な日本一巨樹アコウもあり、あまりの景観の良さJR観光特急「いづたま」号が乗客へのおもてなしとして徐行運転するほどです。

このように歴史文化や国登録有形文化財が町中にいっぱいあり、景観や自然にも恵まれたこの地域を「まるごと博物館」としてまち歩きガイドでご案内しております。

国道・鉄道・日本風景街道で、沢山の方々に中世・近世の指宿を肌で感じていただきたいと思っております。





成章中学校(佐賀)



虹の松原(佐賀)



大牟田小学校区(福岡)



柳川高等学校インターアクトクラブ(福岡)



警固小学校(福岡)



牧瀬杏の会と中学生(佐賀)



小浜温泉57(長崎)



潮見小学校区(長崎)



新大工町子ども会(長崎)



御船町小坂小学校の仲よしチーム(熊本)



帯山中学校(熊本)



菅生小学校(大分)



ばら通り220(鹿児島)



ひかり児童クラブ(宮崎)



北部中学校、天神町小杉ボランティア(大分)

家族連れで参加している団体は、福岡の名島校区「花の架橋」、佐賀の基山会や葉隠れ会、松原を守る会、鹿児島のみら通り220など、九州各地でも熱心に美化活動を実施しています。

九州の中でも特筆した活動を実施しているのが長崎です。先進事例にも掲載していますが、西海市の大島東小学校と長崎市の稲佐小学校の子供たちながら、市域を超えて連携しながらお互いの地域活性化に貢献している事例として、子供たちばかりで

道守の心を引き継いで

道守九州会議が発足した当時、小学生だった子は高校生に、高校生だった子は、社会人に成長しています。もしかしたら親になっていく人も、いるかも知れません。次から次へと世代を引き継いでいってほしいと願っています。

地域の子どもの自主的な環境学習や実践活動を推進する目的で平成7年度に環境省が提唱して始まった「こどもエコクラブ」が、今では一部の学校で取り組まれているくらいに縮小してきています。今後は、道守九州会議が担う役割も出てくることでしょうか！

最近では、通学路のゴミ拾いや除草、花植えなどに積極的に参加する子供たちも増えてきました。大人が声掛けすることで、活動の輪が広がっています。

道守九州会議が発足した当時、小学生だった子は高校生に、高校生だった子は、社会人に成長しています。もしかしたら親になっていく人も、いるかも知れません。次から次へと世代を引き継いでいってほしいと願っています。

環境を意識した活動を展開している佐世保の聖和女学院中等学校では集めた木の葉や雑草などを活用して腐葉土作りをし、それを佐世保市内の他の道守団体の道路花壇に提供しています。

また、まちの景観に寄与する活動を実施しているのが、長崎市の新大工町地下歩道周辺を花で飾り、地下歩道入口付近のモミの木「うましかツリ」を装飾するものです。平成25年12月に9回目を迎え、地元の恒例行事として定着してきました。

環境を意識した活動を展開している佐世保の聖和女学院中等学校では集めた木の葉や雑草などを活用して腐葉土作りをし、それを佐世保市内の他の道守団体の道路花壇に提供しています。



子供たちの
パワーは無限なり!

明るい笑い声を振りまきながら、活発に働く子供たちに、大人は元気をもらい、ますます頑張ろうと勇気づけられることでしょう。

どのような活動も継続を考えると、きが一番に思うことは、「未来を担う子供たちの参加」ではないでしょうか。

子供会や学校単位、ボーイスカウトや公民館、親子連れなど様々な形で道守活動にたくさんの子供たちが参加しています。心強い限りです。

各県の道守会議には子供たち主体の団体が登録されています。福岡では柳川の伝習館高校や柳川高校、杉森高校、柳成中学。長崎では、佐世保の聖和女学院中等学校、創成館高校、長崎日大中等学校、大村小学校子供会。大分では、竹田市立菅生小学校や日田市立北部中学校、ボーイスカウト大分、日天神町小杉ボランティア。宮崎・延岡のみかり児童館や鹿児島のみら通り立加治木小学校などで

道守の未来を担う



ボランティア活動について考えてみました。「ボランティア元年」と言われた阪神淡路大震災からもうすぐ20年になります。道守活動10年、風景街道5年でもあります。

振り返ると、まず「ボランティア」は「かんだんだが、かんだんでない」とは、始めるのはかんだんですが、続けるのはかんだんでない、ということです。イベント的には参加するが、継続的に参加しつづけ、そこに「やりがい」や「生きがい」を見つけているのは、そう簡単なことではありません。「団塊の世代」がリタイアの時期をむかえ、ボランティアとなって地域社会の再生に力をふるってくれるのではないかとの期待がありました。リタイア後の「第二の人生」をボランティア活動に見いだしている人も少なくないのですが、「団塊の世代」全体からすればまだわずかでしょう。何が欠けているのでしょうか。どこ

に問題があるのでしょうか。「会社活動」と「社会活動」との落差を、そう簡単には埋められないことに原因がありそうです。会社では役割があり、つねに他社と競争し、仲間と一喜一憂しながら連帯がつかかわれました。ときには家族よりも会社が大切でした。なぜなら、そこには人生にとって不可欠の何かがあったからです。そういうものをボランティア活動の側も提供していくことが必要になると思います。

次の「誰にでもできるが、誰にでもできるものではない」、そもそもボランティア活動は「第二の人生」でしょうか。リタイア後の第二の人生とされている人は、どこかもうひとつ「やりがい」や



大分市顕徳町老人会テウスクラブ(大分)

もう一度、ボランティア活動を考えてみよう



花植えをするカフェふるふるのメンバー(熊本)

「生きがい」のような充実感が得られていないのではないのでしょうか。

ボランティア活動が「はじめて出会ったやりがいある社会活動」、つまり「第一の人生」と思っている人たちは、取り組みの真剣さや重みが違っているようです。そういう思い切った切り替えは、必ずしも誰にでもできるものではないようです。

「ボランティア元年」から二十年を経て、平凡ですが奥深いことが見えてきたように思うのです。高齢社会にあつて、リタイア後の人生の歩みがとても重要になっていきます。もういちど、ボランティア活動の意味を考えなおしてみたいものです。

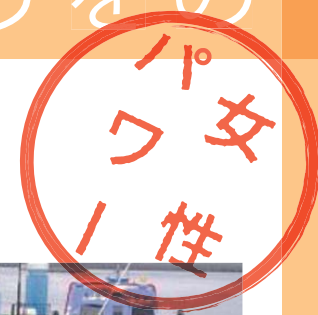


安立 清史氏
九州大学大学院教授、道守ふくおか会議代表世話人、昭和32年群馬県出身。東京大学大学院卒業。高齢社会研究、ボランティア、ボランティア団体、民間非営利組織(NPO)の実態と動態に関する社会学的調査研究を行っている。



門川町小松地区ボランティア団体(宮崎)

道守の未来を担う



道守活動では、女性が主体となった団体が多く、女性ならではの生活に密着した視点と経験を生かして活動しています。一般的に女性の方が地域に根付いており、地域情報に強く、地域におけるネットワーク力もしっかりしているといわれています。「活動に参加すれば何か楽しいことがある」をスローガンに、お金をかけずに手作りのイベントや料理をふるまうなどさまざまな活動を行っています。また、資金調達にもパワー全開の女性達です。

●家計のやりくりのプロは、ノウハウを道守活動でも発揮
佐伯市蒲江の「NPO法人かまえばろーツールズ研究会(代表、橋本正恵さん)」は、平成18年度女性のチャレンジ賞、平成22年度日本農林漁業振興会会長賞を受賞し、平成19年には広瀬大分県知事が名誉学長の「あまべ渡世大学」を開設し、見るだけでなくいろいろ体験してもらい、地域の伝統料理を教える「おばちゃんバイキング」などユニークな催しで楽しませています。



おばちゃんバイキングメンバー・ブルーツールズ(大分)



活動資金は廃油石鹸で・牧瀬杏会(佐賀)

活動資金は、橋本さんが講演することで調達されているとか。元氣と笑顔溢れる蒲江の女性たちの集まりです。

●甘酒や豚汁で若い世代と地域密着型の交流
佐賀の牧瀬杏会(代表、福山貞子さん)が、国道に不法投棄されたゴミを撤去してつくった花畑は27年目。3年前から中高生や若者に声をかけ、一緒に花植えをした後、手作りの甘酒や豚汁、栗おこわなどでおもてなし交流をしています。美味しい料理と若者に囲まれて話も弾むことでしょう。また、廃油でつくった石鹸づくりも5年、

楽しくがモットー！ 集まれ！輝け！ パワー全開！

●花いっぱい道が地域の顔とおもてなし！
宮崎の「串間のみちを考える女性の会」と「宮崎みなみ生活ロード」の皆さんは、「花いっぱい道」の皆さんは、「花をしよう」という思いからカンナやアマランダを植栽し、併せて周辺の清掃や除草、維持管理などを行っています。日頃から参加者一同、楽しく一致団結して参加できる雰囲気づくりを心がけているとのこと。温かいおもてなしの心あふれる皆さん達です。



植栽活動をする宮崎みなみ生活ロード女性の会(宮崎)



植栽準備をする串間のみちを考える女性の会(宮崎)



資金調達をする薩摩川内市商工会女性部(鹿児島)

座談会

道守活動10年の歩みと今後の課題

道守九州会議が発足して、10年になりました。「出来る人が、出来ることを」と、道路の「ゴミ拾いや治道花壇の花いっぱい運動など、地道な活動を続ける道守さんたちの「広場」としての役割を果たして来ました。共感の輪が大きく広がり、会員は現在約5万7000人、活動も多彩となりました。

しかし、課題は多く、花の苗代にも事欠く活動資金の確保、後継者難、官と民の連携の難しさなど、悩みは尽きません。道守活動10年の歩みを振り返り、これからの課題について道守活動に深くかかわってきた方々に話し合ってもらいました。

出席者(敬称略)

道守九州会議代表世話人 (九州大学名誉教授)	榑木 武氏
道守大分会議	桑野 和泉氏
道守鹿児島会議	田島 直美氏
北九州ロードサポーター実行委員会メンバー 首都高速道路(株)代表取締役専務 (元国交省九州地方整備局局長)	花井 由美子氏 宮田 年耕氏
阪神高速道路理事 (元国交省九州地方整備局局長)	岡本 博氏

——九州に、全国的にもユニークな道守九州会議が誕生して10年にもなります。皆様はそれぞれこの会議の活動に深くかかわられてきました。まず、10年を振り返っての感想から。

岡本氏 道路管理でボランティアをされている方々の交流の場という私のイメージでしたが、その後、活動内容の幅とともに会員数も大きく広がりました。10年にわたって活動を継続し、このように発展させた榑木先生、玉川さんをはじめとする関係者の皆様に改めて敬意を表します。

九州のまとまりの良さこそ 宮田氏

宮田氏 道路は地域と深く結びついた社会資本ですから、当然九州の方々が進められてこられた「地域おこし」運動と深く結びついています。特に地域の住民の活動が主体で、重要なのです。道守活動の原型となるような活動は全国各地にもポツポツ起っていましたし、行政側もアダプト制度など道につながる仕組みを模索していましたが大きく「九州」ブロックでの形」で最初に出来たのが道守九州会議でした。九州はまとまりがよく、九州会議という組織が出来ると、情報交換が活発となり、客観的に、また意欲的に意見交換が出来ます。ここまで来たのも九州独特のまとまりの良さ、結束の強さを感じます。

もてなし」の心が一躍脚光を浴びました。あるいは、旅館やレストランのおもてなし一式が海外に輸出され、心のこもる和食がユネスコ無形遺産に登録されました。こうしたもてなしの文化的精神は日本人のDNAですが、私達道守は10年前、あるいはそれ以前から、その思いをもつて活動してきました。「道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えた」万葉の道守精神を現代に引き継ぐと。

榑木氏 東京オリンピック招致活動で「お・

ごみ拾い、清掃、草刈、花植え。中には、孫たちの学生服が汚れないようにとガードレールや橋の高欄拭きもあります。地道な活動ですが、地域の人々がまるでわが庭先かのように黙々と活動している姿に、住む人の熱い温もりを感じます。まさしく人への思いやりであり、優しさであり、長い、長い歴史の中で国内外にわたる交流社会の中で培われてきた九州人のDNA、つまり道守の人々の道守精神であるところづくし思い、その10年の歩みを評価するところです。

田島氏 道守会議の特色は行政にも道守分

に連携してさまざまな課題と向き合ってきた10年は、只々、凄い！の一言です。道守九州会議を引っ張ってこられた役員、事務局の方々の尽力にお礼を申し上げます。

道守の活動団体は、規模も、内容も、多様に富んでいます。各地の活動状況や意欲、その仕組みは常に新鮮で、即、私たちの活動に活かすというレベルとは違っていても、発想に刺激を受け大きなエネルギーを感じてきました。

思いを込めたマイツリー

——特に、どのような点で、活動が進展したと思われますか。具体的に、印象深い活動がありますか。

田島氏 道守かごしま会議では、道守活動を一般の県民の皆様を知っていたくために「道守かごしま座談会」を3年ほど鹿児島市で開催いたしました。しかし、総会にもなかなか出席して頂けない会員に、「道守を理解して頂き連携を深めることが大事と、県内を4つのブロックに分け「道守かごしま座談会」を開催してまいりました。ブロックの会員連帯意識も生まれ、また会員拡大にも繋がりが、それぞれのブロックで組織体系も出来上がりました。これからもかごしま会議の活動の柱といたします。

桑野氏 なんといつでも別大国道のマイツリー運動ですね。それぞれの思いがこもったマイツリーを植え、育て、管理するこの運動



榑木 武氏
九州大学名誉教授
道守九州会議代表
世話人



田島 直美氏
道守かごしま会議代表
世話人



桑野 和泉氏
道守大分会議代表
世話人



花井 由美子氏
道守ふくおか会議世話人

は、道を美しく飾り、また、管理する自主的な活動で、他の地域の参考になっていると思います。

つあげるとしたら、

福岡市の若い方たちが活動しているグリーンボードです。街のゴミ拾いに、参加すること自体「かっこいい」活動へと昇華させている点。サークル的なノリがいいですね。

この活動に、前触れもなく参加したことがあります。若者は気軽に受け入れてくれ、ビブスの着用に、トンク(火ばさみ)とゴミ袋を手渡され、その活動写真は即Facebookへアップされていました。「清掃」がスマートです。

情報発信力の強化を

——現在、道守九州会議の会員は5万7000人。もっと、多くの方々に参加してもらうためには、どうしたらよいでしょうか。組織の再編、改善は必要ないでしょうか。

岡本氏 個々の道守活動は、優れて地域活動です。その意味で、各地で道に関する地域

活動をされている団体に道守会議のことを知っていただき、その団体の情報発信・交流の場の一つとしていただくことが有効かと思われまます。また、道守会議のメンバー(場合によっては整備局の道守会議担当者)が、各自自治体の道路ボランティア支援の会議(北九州市の道路サポーター会議等)にメンバーとして参加することも、道守会議の認知度を高め活動内容を向上させるうえで効果があるのではと思います。

宮田氏

私は「道の駅」を風景街道や道守さんたちの情報ターミナルにして、町おこしをする人々へ開放したらよいと思います。情報発信は勿論、情報ターミナルの運営を道守グループにゆだねても良いと思います。

岡本氏 既に取り組まれています。道守会員の活動に加えて、道守に類する各種活動を取材・紹介する面での道守通信や各HPの一層の機能充実、強化(例えば、みちづくし長崎での小学校の活動紹介等がそれに当たります)。誰もが気軽に参加できるイベント(ウォーキングや○○教室など)を紹介することも道守会議を知っていただく

岡本氏

きっかけになるかと思えます。花井氏 北九州市道路計画課の方とも話したのですが、道守九州会議が、認知度の高い会員がそれぞれ持っているネットワークを活用して、道守九州会議を周知し、有益な情報



岡本 博氏
阪神高速道路理事
(元国交省九州地方整備局局長)



宮田 年耕氏
首都高速道路(株)
代表取締役専務
(元国交省・九州地方整備局局長)

科会という組織が在り、道に携わるボランティア団体の意見を聞く場所があることが発展してきた要因だと思われまます。地域界を越えて九州県内の同じ立場の会員が意見交換し、学び、また、行政のご支援を頂けることが魅力です。

桑野氏 各県のそれぞれ個性がありながら、九州七県の全体の動きにもつながっていることではないでしょうか。道守活動と言う小さな運動ながら、将来を見据え、道守九州会議を通して、長期的なスパンで見ていること。その活動を通してそれぞれの団体が思いを形にしている。大分であれば東九州道、中九州道等などの実現に向けての動きなどにつながっていると思います。

宮田氏 九州の人々の「道路」への関心の強さではないでしょうか。九州では東九州自動車道の整備がなかなか進みませんでしたし、横断道路、南九州の「西回り」もそうです。こうした「太い道路」が未整備のまま残されたままのブロックで、東西格差、南北格差が存在し、特に道への関心が強いブロック地域であることが背景にあるのではないのでしょうか。

花井氏 「道」と「美化」を共通項として、九州各県のボランティア団体と行政がとも

収受等のメリットを伝えて、加入を促すと良いと思います。

榑木氏 九州7県の総人口は1300万人。一方、九州全体で、高速道路から市町村道までのすべてを拾い出せば148960kmです。現在の道守会員57000人で割れば2.3km/人となります。道守活動に励む人がどの程度であることが望ましいかはわかりませんが、無理なく道守活動を実践するとすれば、あるいは、人口の1%が参画するとすれば、現会員の倍の人々が道守に参画してもおかしくはないと考えます。その意味で、より一層の道守会員の参加を求めたいと思います。

しかし、会員が増えれば、その情報交換や交流、維持のためにいくつかの改善が必要で、す。二つは、現在の県単位主体の道守会議のさらなる分割です。ボランティア活動であることを踏まえ、道守を世話する人の負担が過度になることを避けねばなりません。その意味で、二つ一つの組織を身軽にすることが望ましいと考えます。

田島氏 組織の編成は各県会議でなされており、それぞれの地域で行政との連携はできております。助成金が削減された今、経費増になりまますので、九州会議としての再編の必要はないと思えます。

多くの方々に参加して頂くには、楽しく生き生きと活動をしている道守会員の姿をPR、行政との連携協働のアピールが必要で、す。

道守活動へ参加するためには、「きつかけづくり」と「情報提供」が大きなカギではないでしょうか。

道守九州会議の参加団体は地域に偏り（疎密）があります。しかし、道の清掃、植栽ボランティアの団体は、どの地方自治体でも活動しているように思います。それら活動団体が道守というネットワークを、ご存じない場合もあるのではないのでしょうか。

各県輪番で開催する「みちづくし」はその県にとつてPRの絶好の機会ですから、未加入の団体への働きかけや、仲間の開拓、道守の楽しさ面白さが伝えられたいと思います。

道守の会員でない団体でも、継続して活動しているいい団体があれば、「みちづくし」で表彰し、それを機会に加入を勧めるなどでしょう。地元での「みちづくし」であれば気軽に参加できるのではないのでしょうか。

樗木氏 大切なのは住民の意識改革です。最近よく聞くのが、外国人も含めて新・旧住民間のトラブルです。従来からのしきたりになじめない新住民が多いが、地域の活動は長い間に培われてきた住民の営みがあり、道守活動も様々に工夫して新住民を迎え入れる努力が必要と考えます。それと同時に、子供のころから地域活動をより活発にする子育て環境を整える必要があるとも考えます。そして、この行きつく先が、性別や年齢だけでなく、価値観の共有やライフスタイルによるダイバーシティな道守のシステムづくりと交流連携の強化であると考えます。

——後継者について。小学生から大学生まで参加を促すことが大切ですが、それぞれ的な参加を促すことが大切ですが、それぞれ参加するインセンティブや興味は異なります。高齢者は健康への関心が高く、女性は趣味と実益への関心が高いだろうと思えます。そこで、高齢者のための健康、生きがい活動を組み込んだ軽易な道守活動を企画し、清掃、花植えと交流会などを、女性は花壇づくりしその持ち帰りや押し花づくり、それを活用した料理教室や毒草の見分け方教室などをというように、活動のあり方を工夫することも一法ではないでしょうか。

田島氏 地方においては、老人、女性は街づくりに一生懸命であり、地域ボランティアの担い手です。さまざまな活動は、地域内の人、物、自然といった資源をいかし特産品開発等により経済効果が生まれています。まだまだ元気な高齢者は自分の特技をいかせる事、知恵をだすことで生きがいを感じていますので、あらゆる場面に声を掛けて参加を促す事が大事です。

女性パワーは未来への責任 桑野氏

——また、女性パワーについては。

田島氏 地域を活性化させる起爆剤は女性の活躍です。女性ならではの視点や発想により、より住みやすい街づくりの大きな力です。行きかう人たちの心が和むように、花を通して街づくりや人づくりに取り組んでいます。花が咲いているとみんな心地良く笑顔がこぼれます。自分たちの花壇をほめてもらう事でより一層花植えが楽しくなります。

で、若い世代の活動を活性化するためには、どのような方法があるのでしょうか。

田島氏 ひとつの体験を通しての環境学習です。自分たちが通る道のゴミを拾うことは「道」の存在を意識し、地域への愛着を養うことにも繋がると思います。

道に面している企業は地域貢献の意味もあつて、企業周辺の清掃活動をする会社が増えています。特にIT関係の企業などは社員が総じて若いので、若い層の活動者が増えることになりやすい。企業イメージにも大いにプラスです。

大切なのは意識改革

樗木氏

人は、成長過程で様々な体験をします。その体験が生きる糧となり、やがて人の道となります。その意味では、まちやむらの土台である道を介して、人とのつながりを体験することが大切であり、若い世代の体験学習のより一層の積極化を図ることが大切です。パレードなどのイベントや祭りの道、マラソンなどのスポーツの道、遠足やまち歩き、お使用の道、信仰の道、歴史教育、環境・理科教育など。私達の考えを押し付けるのではなく、若い世代が興味を持つテーマへの展開が必要でしょう。

花井氏 北九州市道路サポーターの会の登録団体にも、活発に活動をしている高校生や大学生の団体があります。ボランティア意識をもつて自ら参加するには十分な年齢だと思えます。

昨年「みちづくしin長崎」で発表した小学校の児童たちのように、学校で活動が継続

近隣の方から「この花を植えませんか」と種や苗の提供があり、花作りが連鎖してきました。関心を持つてもらう事が大事ですね。

桑野氏 大分の女性たちはマイペースでいながら、目標をもち、形にしています。その原動力は未来への責任という事でしょう。その女性たちとの出会いで私も影響を受けました。道守としても高齢者や女性たちの活動に特に光をあててみることでヒントがあるように思えます。

——車社会、高速道路時代を迎えて、人々の「道」への意識が遠ざかって、ごみのポイ捨てなどが目立ちます。マナーの悪化の背景は何でしょうか。

岡本氏 高速道路ではゴミのポイ捨ては、他の人の事故原因にもなる可能性があり、マナー違反にとどまらず危険な行為です。高速道路上のゴミを拾うことは専門の人がやるのですが、道守活動を通じて道に関するマナーが広がっていくことを願います。

樗木氏 基本的には、モータリゼーションの進展の中で道が人々から離れた存在になりつつあることに原因があると考えます。危険な道、大気汚染の道、騒音の道。こうした状況が子供を道から遠ざけ、生活や通学道から道の分離を生み出しています。このため、道の中にあつてマナーの悪化を招いている面もあることは事実です。だからこそ、道守活動をより多くの人に経験していただき、道への愛着を深めることが大切ですね。

田島氏 人目につかない場所への不法投棄が多い、所有地の除草など適正な土地の管理がなされていない。——などが目につきま

されれば、意識が育っていくように思います。そこで、小中学校へ「道守講座」を出張開催してはどうでしょうか。道に関するクイズを織り交ぜてもいいと思います。道への関心を育む機会になると思います。

田島氏 体験活動によって、みんなが気持ちよく活動するためのルールやマナーの必要性を地域活動によって子供に実感させることが必要です。さらに、地域住民と関わりながら共通の目標を目指す活動に取り組む楽しさを感じてもらおう内容にする。

自分たちが汗をかきながらやる事が、喜ばれたりすることで、地域の役に立ち、自分自身も地域に住む人間だと実感できる。そのことを、頭で理解するのではなく、体で理解することが大事です。

花井氏 1年前ですが、自宅前を登校する小学生に、自分たちの通学道を清掃しようと呼びかけました。実施は日曜日でしたが、その道で通うほとんどの子どもたち(13人)と、その弟妹や保護者も参加して、ゴミ拾いや草抜きをしました。

昆虫に戯れる子、草花を摘んで花束を作る子など、清掃も遊び感覚でしたが、きれいにした後の気持ち良さは大人も子どももいっしょです。その後も不定期に実施していますが、参加率はとてもいいです。

田島氏 花を植えて育てる活動を通じて、自然の美しさ、つくり育てる活動の楽しさと、

世代交代は進む 田島氏

働くことへの積極的な態度を育て情操豊かな人間の育成を図る目的とし、緑化活動をしている学校があり道守活動に積極的に参加してもらいたいですね。

——高齢社会が進む中で道守活動は、地域活動とどう結びつのが良いのでしょうか。老人パワー、一層の参加を促すためには、どのようにすればよいのでしょうか。

田島氏 道守会員の高齢化問題が言われていますが、限界集落以外は世代交代が行われていると思います。活きた活動をしている団体であれば順を追って中間世代が高齢者となり入れ替わりがあります。高齢者クラブは65歳からの加入であり、元気な高齢者がどんどん加入しています。まさに団塊の世代が加入年齢になります。ボランティア精神を持った祖父母が孫を連れての道守活動が一番です。

岡本氏 高齢者社会になり、お仕事から離れ、マンションでの一人暮らしの方も多くなっています。道守活動や道守会議への参加を通じて多くの方とネットワークができ、社会に貢献しながら元気に暮らしている様になればと願っています。道守通信等で、やってみたいかなと思うような健康の秘訣や毎日の楽しみ、健康食品なども紹介していただければと思います。

樗木氏 日頃勤めのある人は地域活動、道守活動への参加が難しく、結果として老人パワー、女性パワーが主になる傾向があります。それならば、こうした人たちのより積極

現場の力を活かす — 共助・連携こそ

国民の皆さんの支持を得て、現在1014駅にまでなっている。休憩、地元の商品をそろえ、情報発信する機能を持った道路沿いの「駅」だが、物販・休憩だけでなく、もっと情報発信力を強め、活動の拠点となつて欲しいと思う。そうならば風景街道が目指す「地域連携」がもつと進むだろう。また、道の駅が、道守さんたちのようにモチベーションの高い人々の活動の拠点になつてもらいたい。

九州の道守活動は日本風景街道を進めるうえで大きな力となっている。風景街道は地域の資源を住民自ら磨き上げ、交流人口を増やすという、地域活性化を、道路を通じて目指すものだ。米田がインターステート(州間高速道路)を整備した時、サンディエゴからシカゴまでのサンセット66号、この米田の歴史を物語る道路の復権を目指して、「アイゼンハワー大統領が「シニックハイウェイ」を提案した。日本風景街道の誕生もここから始まっている。

長い時間がかかった東九州道がようやく実現の運びとなつて、九州に高速道路のネットワークが出来る。これに加えて風景街道や道守活動が活発になり、道の駅がその拠点となることを期待している。(談)



国土技術研究センター理事長
近畿地方整備局長、国土交通省道路局長、技監、事務次官等を歴任

谷口 博昭氏

「道普請」と言う言葉がある。その精神は行政主導ではなく、住民を活かす連携を意味している。連携の形としては、公助、共助、自助の形が考えられる。公助は東日本大震災のように、国や地方自治体が出す支援が優先される形だ。九州の「道守活動」のように、道をきれいにする活動は行政と住民が連携して行う「共助」であり、今後、最も望ましい形と言えるであろう。

「自立の促進と美しい国土」をテーマに湯布院で夜なべ談義をしたことがある。湯布院の地域リーダー・中谷健太郎さんが(行政の姿勢として)「ただ、予算を付けるだけでは、計画は進まない。民の力を信じて、国民に投げ出してみる精神が大切ではないか」と言われた言葉が今でも脳裏に残っている。

行政は積極支援を 岡本氏

——道路の維持管理の主たる担い手である「行政への要望」について。

車の窓から投げ捨てられているゴミの少ない時間帯や幹線道路から離れた周辺道路に多い。さらに、いったん誰かが捨てたところに別の人が捨てていくというように、ゴミがゴミを呼ぶという悪循環が見られます。

「誰も見ていないからいいだろう」、「ほかの人もやっているからいいだろう」という軽い気持ちによる行為であり、一人ひとりが「モラル・マナー」について考えるべきである。

ごみの捨て方に対する様々な制約が増えるのに従って行き場を失ってしまうごみが増加しているのではないかと思います。

桑野氏 何より自分の道という意識の薄さでしょう。

花井氏 自宅前の道には、車の中の吸い殻は捨てないでしよう。ゴミを捨てるのは、愛着もない自分とは無関係な地域だと思ってしまうからでしょう。利己主義の蔓延ですかね。

定期的な清掃活動をしていると、通る方が「いつもありがとうございます」等と言葉をかけて通られます。地域に、顔が見える関係が広がります。

私も、出かけ先で道美化活動をしている方に出会って、お礼の声を掛けて通るようになっています。



補修・維持に交付金を 宮田氏

に頭を悩ませています。自主財源確保の知恵はありませんか。

宮田氏 首都高もそうです。インフラの老朽化への対策に追われる時代になって、道に関する財源はとてつもないです。特に身近な道の維持管理は市町村自治体となりませんが、現実には厳しい。維持管理について点検が義務化されますが、補修・維持について特化した交付金が必要なのではないのでしょうか。

田島氏 道守活動を継続していく上で、厳しい財政状況下において道路の植栽帯の維持管理費の減少により行政からの援助が削減され、ボランティア活動を取り巻く環境は大変厳しい状況となっています。特に花壇ボランティアは花苗や肥料の費用がかかるため、より厳しい状況にあります。

花井氏 悩ましい問題ですが、いい知恵が思い浮かびませんか。

桑野氏 由布院では「かくや姫募金」という環境保全募金を全旅館においています。地元の人たちももちろんですが、募金など多くの人に賛同いただくことも大事だと思います。

田島氏 私たち、商工会女性部は花の苗を購入するために、夏祭りや地域出開催されるイベント会場で「焼きそば屋さん」をして資金づくりをしています。

事業趣旨、計画等をご理解いただき、公益信託「そうしんまちづくり振興基金」を頂き、ピブスをつくりました。資金を支援いただき、ボランティアで道路の美化活動を行っている団体の花苗の費用に充てることで、ボランティアの費用負担軽減に役立てることを計画しております。

道路清掃美化以外に、皆の生活の基盤であり共有財産である道路を大切にすることを広めることにあると思います。その意味でも行政は、積極的に道守活動を支援していくことが望まれます。例えば、九州地方整備局・事務所で、管内の自治体が実施している市民活動支援制度の中で道守活動に関係しそうな制度と実際の事例等を調査し、幹線道路協議会や整備局ETC・道守通信等を通じて紹介することなども有効ではないかと思っています。行政同士の連携が重要ですね。

岡本氏 道守活動の大きな効果は、具体の道路清掃美化以外に、皆の生活の基盤であり共有財産である道路を大切にすることを広めることにあると思います。その意味でも行政は、積極的に道守活動を支援していくことが望まれます。例えば、九州地方整備局・事務所で、管内の自治体が実施している市民活動支援制度の中で道守活動に関係しそうな制度と実際の事例等を調査し、幹線道路協議会や整備局ETC・道守通信等を通じて紹介することなども有効ではないかと思っています。行政同士の連携が重要ですね。

櫻木氏 安全・安心の道を整備すること、それを使いこなすことが大切ですが、前者は行政の役割であり、後者は市民が主役であることはいうまでもありません。そして、その間に維持管理、保守点検があり、この部分

活動をご理解いただき、協賛金を頂きました。どんな地域で活動している道守さんか声をあげてくださいとのことでした。そうしたら大きい金額を支援できます。とのお言葉も頂きました。企業が自ら行う社会貢献が促進されるような情報を提供し、企業が蓄積してきた経験の提供と機動力を活かしていただき、共に道守活動を行う事が大切

桑野氏 企業は地域があつてこそ成り立っていることが多いと思います。だからこそ企業しかできないこと、企業だからこそできることをしやすいう環境を整えることの重要ですね。

花井氏 企業は道守活動で必要となる金銭面、また人員面で有効な主体であるので、とにかく企業自らをPRできる場が設けることを可能とする施策を考えたいと思います。また、企業の地域貢献活動も注目されているので、参加を呼びかけることによつて、取り込むことができるのではないのでしょうか。

——今後のあるべき行政支援とはどのようなものか。

櫻木氏 この点、地方道では問題ないが、国道になると不十分と考えます。道の利活用や道守活動は地方道、国道を区別するものではないものの、その一方で道の管理が分かれている点問題があります。両者を合わせ、道全体として行政支援をどう受け止めるか、それぞれの管理者の連携が強められ、行政

こそが行政(おもに安全、安心を保証する面から)と市民(主に利活用の面から)が本質的に協働すること考えます。しかし、この維持管理等を効果的に実施するためには、行政として、市民により一層の協働を求め、意識改革が必要であり、この点必ずしも十分とはいえず、小手先にとどまる、便宜的に対処しているところも見受けられます。

桑野氏 最近「新しい公」とよく言われます。官と民「協働」がどうしたら進むか、両者で一緒に考える機会の提供がまず必要でしょう。道守の関係者が道守精神を(行政に)もつとアピールしていく必要があると思います。自ら動いていくことが重要です。一緒に考えられる場を、話し合える場の提供、情報提供、学ぶ場など「場づくり」が必要ではないのでしょうか。

櫻木氏 たとえば、道の清掃や草刈りなどの内容の企画と委託、地域に熟知したスケジュール調整などを含め、あるいは権限、財源の上でより一層市民と協働する仕組み作りが望まれます。さらに、保守点検などについて、必ずしも専門的でなくても、市民自身がある程度の知識を持つよう教育、実習、情報公開などを行うことも大切と考えます。

要するに、市民の活用がシステムとして道の維持管理に組み込まれること、道守診断士の資格のための講座などを推進し、行政と市民とが対等の立場で一層協働することなどを今後のこととして期待します。

花井氏 日ごろ通っている人は、道の危険箇所や道路の異常に気づきます。道路の陥没や水はけの悪さ、歩道橋の柵の腐食や樹木による道路標識の覆いなど、関係部署に知

と市民との協働が円滑化に推進されることを期待します。

田島氏 物的支援も大事ですが、パートナーシップを確立して頂く為にも職員の意識改革といういろいろな行政情報の提供をお願いしたい。

花井氏 行政として、活動団体同士の交流・連携を促進するとともに、そこから生まれる新たな力を発揮できる環境を整えることが必要になってくると思います。

——道守活動と他の活動(風景街道、道の駅)との関係をどうとらえるか。今後どのような展開が考えられるのでしょうか。

櫻木氏 道守活動は道の維持と利活用を、風景街道は地域を繋ぐもてなしを、道の駅は地域の活性化と道情報の発信をと、それぞれに活動内容は異なるが、道を舞台にする点で共通しています。また、これら3者の活動は本来総合してより効果が上がる性質のもので、これらから、当然ながら3者の連携活動が望まれ、そのことで地域の活動および地域間の交流がより充実するもので、これからの活動の課題です。そのためには、3者協議の場を設け、それらの連携のあり方を模索する必要があると考えます。

桑野氏 お互いの運動の情報交換が積極的に行われるような「場」ですね。

田島氏 地域活性化の向上に向けて活動している団体が中心となって風景街道推進協議会を作っておられますが、道守活動をして

らせたことがあります。このような通報に対して、とても早い対応をしてくれています。また、その結果を知らせてくれます。協働の実感はうれしいものです。

櫻木氏 地方自治体の理解と意識改革を推進することが必要です。高齢社会が進む中で、道の維持管理をどのように推進するか、その形態は従来のものを思い切つて改善することであり、その策が行政と道守とのパートナーシップの制度的な構築や行政意識の改革です。場合によっては、ポイ捨て条例や禁煙条例などといった類の条例の幅を広げ、より道守と行政の協働が拡大することも必要と考えます。

田島氏 県民が知恵や力を発揮できる環境整備をおこない、プロセスの共有、自立対等の関係にもとづく「相互信頼のネットワーク」が必要ですね。

地域活力の向上やコミュニティ機能の強化に向け、地域の身近な課題に対して住民が主体的に取り組めるような人材・情報支援をお願いしたい。

花井氏 共通の目的のもと、それぞれで出来ることを持ち寄り、行う、協働の意識を相互に持つことが関係の強化につながると思います。

——清掃だけでなく治道の美化運動(花壇作りなど)も必要ですが、苗代など活動資金もありませんか。



——北九州市はじめ各自治体のロードサポーター制度が注目されていますね。

田島氏 鹿児島県のふるさと道サポーター推進事業は平成18年より地域の自治会、ボランティア団体、企業などの様々な団体と連携し道路環境の保全を目的に設立され507団体が加入している。サインボードの設置、保険、ごみ袋、花苗等の提供が行われています。薩摩川内市でも23年度から、サインボードの設置や花苗提供が行われています。

鹿兒島県とは連携し「ふるさと道サポーター通信」にも道守かごしま会議の情報掲載して頂き、「道守かごしま座談会」にも参加して頂いております。16年に設立したかごしま会議より、はるかに大きくなりました。地域密着度の違いがあると思われませんが、私たちもしっかりと情報発信をし、道守会議の周知と活発な活動を心がけます。

環境を謳う市の一端を担う 花井氏

花井氏 平成17年10月にスタートした北九州市道路サポーター制度は、市民と行政の協働により、道路への愛着・環境美化への意識高揚とすそ野を拡大し、美しいまちづく

りにつなげるため、北九州市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化や道路施設の点検・異状等の通報のボランティア活動を行う、一定の要件を満たした団体を支援するものです。市の支援内容は、清掃用具の支給・貸与、花苗の支給、ゴミの回収などです。現在、193団体、約11200名が活動しています。平成25年度からは、制度のあり方について活動団体の皆さんと一緒に考え、決めていくことができるように、また、活動の充実及び連携を図るために、北九州市道路サポーターの会として新たな仕組みを始動しました。

区会の設置は活動団体同士が一番身近なところで交流・連携ができるよう、行政区毎に、年に1回以上団体代表者が集まる場を設けられています。

区会は、身近な活動団体同士の話し合いの場です。活動に熱心なあまり行政への要望が強すぎる意見もありますが、お互い、顔が見える区会の話し合いの中では希釈されていくこともあります。

「出来るときに 出来る人が 出来ること」で…のボランティア精神を再確認しあい、新たな協力関係が築けるような場にしていきたいと思っています。「環境」を謳う北九州市の一端を担うボランティアとして。

「新しい公」と言われ、官と民が「協働」することの重要性が強調されてきました。これをもっと進めるには。

岡本氏 行政は道路の維持管理の主体ではありませんが、人的・財政的制約で、万全とはとても期待できません。従来の枠を越えて、



喜安 和秀
国土交通省
九州地方整備局
道路部長

「現在の道守は住民と行政が協働し、「道」と人の新しい縁を紡ぐ。」

平成16年2月、高らかに道守九州会議の設立宣言がなされたあの日から10年。

この記念の年に、再び九州の地で勤務できることを大変幸せに思っております。

振り返りますと道守九州会議設立から10年、交流ネットワークは大きく拡がり、今では会員数も57000人。その活動も個人にとどまらずNPOや産学官が連携し、多様性・アイデアに富んだものも多く見られ、成熟した団体へと進化されています。私自身、道守の方々の温かさにふれるたび、紡がれていく「縁」というものを再認識して参りました。

これまで活動を継続するうえで数々の課題があったと思いますが、それを克服しながら着実に歩みを進められ、10周年を迎えられたことに心より敬意を表します。

道路は国民の日常生活や経済活動を支える最も身近な社会資本であり、極めて多面的な機能と役割を持っています。

先の東日本大震災においては被災地の早期救援ルートとして、副次的には高台の避難施設として、まさに「命の道」の役割を果

市民・企業と協働してより良い維持管理を目指すことがいわゆる「新しい公」だと思います。この場合、道路管理者としての行政が、市民・企業のニーズを受け止めて、他部所機関とも連携して実現していこうという姿勢が求められます。行政側の意識改革が必要となるわけですね。道路管理担当職員は、自分の所掌範囲を強く考えてしまいがちですが、道守会議の活動を通じて市民・企業の方々と普段から接することによりこのような意識変化が自然に広まることを期待しています。

宮田氏 なかなか難しい課題でひとつだけの解答はありませんが、まず、住民と接している工事事務所の所長と活動のリーダーが共にその意識を持って運動を進めることではないでしょうか。その中で成功事例が生まれ、さらに次のステップに進む。(行政官は転勤が多いが)人事異動はやむを得ませんが、道守活動について、次のポストでも生かす、あるいはその気持ちを持ち続けることによつてそういう意識を持った人間が増えて行く。道路関係もソフト施策に関心を強く持たねばなりません。

花井氏 「新しい公」という言葉は、今一つ意味が捉えにくいですが、「道守」のネットワークを広げることには尽きると思っています。

「新しい公」新モデルの創造を 榎木氏

榎木氏 これまでの道守活動などを踏まえ、まずと、新しい公を、社会貢献、ボランティア活動の観点でとらえる向きがあるが、本来はそうではありません。これまでの行政や企業を乗り越え、より市民目線に立ちながら、道



けやき通り子ども達と美化活動(福岡国道事務所)

の管理に関わる活動を実践するのが道に関する新しい公です。その意味で、道守活動を経験しながら、新たなビジネスモデルを創造することも大切です。高齢者の見守りや支援活動、災害通報や道の点検、地域案内、地域資源の活用、簡易な道の補修作業の請負などが考えられます。

田島氏 私は平成21年より市民活動促進事業に関わり、今は市民ネットワークの代表をしておりますが、前進しない理由は政策にあると思えます。

ここ数年でボランティア活動をしていた企業、零細企業や商店の経営が悪化しボランティアをする余裕がなくなり、参加者が減りました。

また、NPOが行政の仕事を委託出来るようになるには、なかなかハードルが高いです。しかし、これからは景気回復の兆しがありますので企業における社会貢献活動が広

紡がれていく「縁」を

たしたことは記憶に新しいところです。

また、社会空間の中で道路は非常に大きな公共空間であり、この空間を美しいものにしていくことは心地よい日々の生活へ繋がります、それが継続されることで地域の品格となつていきます。なかには、歴史・地域文化といった要素を空間に取り入れ、観光振興等、地域活力の維持に繋がった成功事例もあり、道路空間の高質化は地域にとつて非常に重要な取り組みです。

個人の価値観やニーズも多様化しているなか、従来の「公」の領域に加え公共的価値を含む「民」の領域がうまく融合し、それが美しい道路空間づくり、地域づくりに繋がっている「道守」の活動は「新しい公」とも呼べるべきものと思われまます。

今日、その潮流の大きさを踏まえると、今や、私たち行政はもろろんのこと、地域にとつても極めて重要な存在となつていくことを強く感じています。

今後、共に美しい道づくり・地域づくりに取り組むパートナーとして、皆様と一緒に励み、考え、喜びを分かち合つべく、整備局、事務所一体となつて取り組んで参りますので、引き続き宜しくお願い致します。

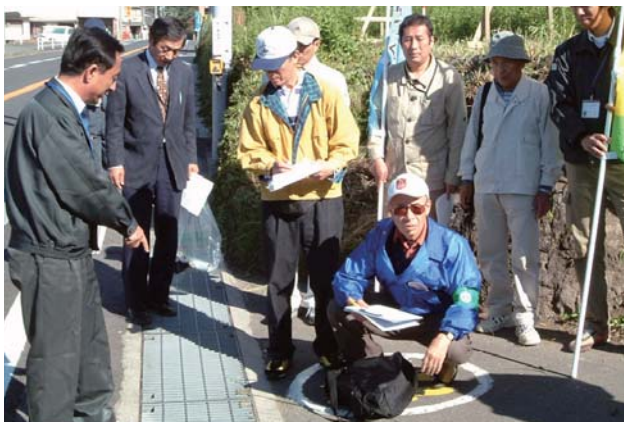
また、道守の方々は「道路のことを深く理解して頂いている利用者(ユーザー)」でもあります。私たちの進める事業についても様々な場面で情報提供させて頂きますので、お気づきの点等ございましたら、是非アドバイスを頂けたらと考えています。



清掃活動後に道守さんと集合写真(大分河川国道事務所)



けやき通り子ども達と美化活動(福岡国道事務所)



道守さんと道路の安全調査(長崎河川国道事務所)

道守九州会議の10年



森 将彦
道守九州会議副代表
世話人

組織の芽生えと歩み

平成15年秋、国土交通省九州地方整備局により道に関わるボランティア活動者との意見交換会が開催されました。この場において相互の情報交流や行政との意思疎通のためのネットワークの必要性が提起され、組織設立への準備会の発足となりました。私は準備会事務局長を命ぜられ、準備会正副代表の榎木先生、整備局岡本道路部長はじめ多くの方々のバックアップと各県の世話人の皆様の協力をいただきました。平成16年2月に福岡においてトークセッション「人と道、その新しい縁が開かれ、道守九州会議」設立が宣言され歩みを開始した瞬間でした。

各地で活動をされる皆様はそれぞれの想いのもどで自主的に活動をされているのですが、道守会議における様々な活動者や行政関係者などとの意思疎通や情報交流、研鑽などの交流機会に大きな期待と熱い想いを寄せられ、熱心に協力をいただいたことが私にとつて非常に新鮮で印象的なことでした。また、組織活動を継続してゆくための財政確保においても多方面の方々に賛助会員としてご参加賜り、この10年の活動を継続できたことは、皆様の暖かいご支援があつたことと改めて厚く御礼を申し上げます。

このような熱い想いを持たれた多くの皆様との存在は、より地域に密着した道守活動者の意思疎通や情報交流、連携などのための地域ネットワークづくりへと自然に発展してゆき、平成16年3月のくまもと及び大分会議発足を皮切りに平成17年3月には九州全県において道守会議が設置され、世話人事務局などの役員体制のもと地域に密着した活発な組織活動が展開されていくこととなりました。

行政側での住民との接点は通常、道路等の公物管理や利用に関連する苦情や相談、公物整備等に伴う個々の権利との協議や調整等々、もっぱら個々の利害や環境等と絡むもので、法律や規定などを根拠に対処するいわばお役所仕事としての接点となります。モニターやボランティアサポーターなどの協力者との接点もありますが、この場合も役割や費用負担などを協定等で規定する契約的構図のもので、道守会議のような行政

の絆強化など大きな社会的価値を伴っている形態も多くみられ、道などの公共空間を大切にしたいをさせる若男女の皆様は、組は地域コミュニティや青少年育成などにも大きく関わっています。

行政への距離感や理解

この10年を振り返り、意識の高い皆様各地に多く存在すること、自治体等を含め行政側がこれら皆様と対等、自由な立場で向き合いができる場合には、民力の活性や相互信頼が促され大きな地域力となっていることを痛切に感じます。また民の協働の広がりは、従来の道などの公物管理等のいわゆる「官」の領域に民サイドからの清掃美化や活用などの関わりが付加されるもので、いわば従来の行政「官」の領域をもうすこし広く包含した「公」の領域において行政と民が新しい関係を築いていく「新しい公」の形態かと思われまふ。またこれらの関係においては資金助成等の側面も若干含まれるものの、それ以上に想いを一つにして、共に悩み、考え、元気づけあつていくなどパートナーとしての意思疎通がより重要かと感じています。

10年の歩みのなかで、想い半端で世界離れた大切な仲間、仕事の関係で九州を離れたり異なる領域に転向されつつも、いまだに声援を届けていただく皆様のお顔が浮かび感謝の念に堪えません。新規人材や若手参加なども今後の大きな課題で、さらなる10年への歩みにむけ、新しい人々の参加と力に大いに期待を寄せるものとさせていただきます。

熱い思いで「新しい公」へ

大切な「みち」に想いをよせ、清掃美化や有効な活用などのみちへの関わりを自主的になされていく、個人で日常生活の小さなエリアでされている方々から広い領域で計画的に活動されているグループやNPO、企業等まで幅広い形態や個性が存在します。各地の道守会議では多くの道守の皆様が知り合い、励まし合い、学習や育成などを広げる場として、関係行政とも連携し意見交換や学習・交流・体験の場を設けたり、地域の活動情報等の発信・提供などを行っています。

また、地域に密着した道守活動では、児童からお年寄りまで幅広い階層の参加を通じて、青少年の心の育成や地域コミュニティ

の利害のない自由で縛りのない協働等への意思疎通などの接点は従来にはない形態のもので、相互を理解する機会ともなり、行政を身近に感じていただくことにも貢献しているのではと思っています。

現在、道守会議に登録されている団体やグループ等の道守の皆様は九州全体で約6万人弱ですが、各地で清掃美化などの活動をされている方々はこの何倍、何十倍もの数になるものと思われまふ。これら皆様の活動の広がりを通じ、美しい元気な地域や心、そしてコミュニティを育成していくことは地域づくりの根幹をなすもので、本誌記事にも多く見られるように、特に市町村等自治体での民活動への向き合い方は地域力の活性

プロフィール

九州建設技術管理協会理事
元国土交通省九州地方整備局道路部長

各県会議の道守団体一覧

※順不同

片山ストラテック(株)九州営業所	カレーの店 路	道守ふくおか会議
瀧上工業(株)	(有)林石油	黒崎地区美化推進協議会
(株)神戸製鋼所 九州支店	よりみち会	小倉興産(株) ひまわり町内会
(一社)九州建設技術管理協会	直方バイパス頓野やまもの会	(株)都市開発コンサルタント
ふくおかウォーキング協会	行橋市観光協会	北九州市指定文化財(史跡)
(社)国土政策研究会	福岡県さわやか道路美化促進事業	北九州国道事務所 清掃ボランティアの会
(株)長大テック 福岡事務所	(有)植田化工紙	久屋産業(株)
国交省 福岡国道事務所	名島校区「花の架橋」実行委員会	北九州ふるさとを愛する会
(一社)九州地域づくり協会	イオン九州(株)	長崎街道を愛する会 北九州市 産業学術振興局 貿易振興課
西日本モーターズ(株)	西日本新聞エリアセンター連合会	長崎街道(筑前黒崎宿) 曲里の松並木を愛する会
前田建設工業(株)	NPO法人 「はかた夢松原の会」	西鉄バス北九州(株) 八幡自動車営業所
NPO法人 九州発見塾	けやき通り発展期成会事務局	西鉄バス北九州(株) 戸畑自動車営業所
福博:都市シーニックバイウェイ研究会	福岡総合研究所	学園&地域交流ネットワーク
みかど産業(株)	(株)大貝環境計画研究所	九州共立大学ボランティアサークル "ちょボラ"
(株)共同技術コンサルタント 福岡支店	NPO全国街道交流会議	八幡タクシー(株)
大日コンサルタント(株) 九州支社	NPO男女・子育て環境改善研究所	北九州市道路サポーター「ひまわり」
ごみゼロ青春探検隊いとしま	三井住友建設(株) 九州支店	NPOシニアネット北九州
アクロス福岡文化誌編集委員会	(有)武田設計	北九州市道路サポーター
太宰府観光ボランティア	(株)オリエンタルコンサルタンツ	クラブワールドピース ジャパン 福岡支部
(株)エスケイエンジニアリング	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	馬島清掃団
久留米諏訪野町郵便局	(株)建設技術研究所 九州支社	道の駅 豊前おこしかけ ぶぜんあじさいクラブ
九州環境建設(株)	西日本技術開発(株)	(福)周防学園
(株)久栄総合コンサルタント	(株)エイト日本技術開発	岩屋壮年会
よしいコスモス街道実行委員会	いであ(株)	如来田の環境を守る会
グループ「道草」	パシフィックコンサルタンツ(株)	邦和物流センター
大川市建設業(協組)	(株)福山コンサルタント	グリーンボックス
筑後川昇開橋若津町振興会 もりあげる会	NPO法人 green bird	(株)宗像英ちゃん

各県会議の道守団体一覧

※順不同

小浜温泉57	佐世保三ヶ町商店街振興組合	琴海町商工会
NPO法人 ぽかぽか	道守諫早ネットワーク	(株)長崎中央建設
道の駅(株)「みずなし本陣」	上園会	(株)田浦組
宅島建設(株)	宇都町老人クラブ 千歳会	(株)NIPPO 長崎出張所
星のスピリッツ隊	福寿会	外海ツーリズム協議会
雲仙を美しくする会	多寿喜会	大浦青年会
(福)ほかにわ共和国 八雲寮	老人クラブ 誠会	(有)鼎興産
(株)松尾組	(株)法面	(有)クレスト
TEAM GEAR	山口ミセスの会	佐世保たばこ販売(協組)
環境美化を考える会	久山町まちづくり委員会	クローバー・ロード清掃隊(西部道路班)
大宝建設 道守会	(株)エフエム諫早	// (堀内組班)
雪の浦ウィーク実行委員会	長崎日本大学中学・高等学校	// (上滝班)
個人会員 9名	諫早市ボランティア連絡協議会高来支部	// (梅村組班)
道守くまもと会議	創成館高等学校	にこにこクリーンさざ
NHK熊本文化センター 支社長	諫早市清掃愛護クラブ	佐々204通り振興会
自然を愛する会 代表	増崎建設(株)	聖和女子学院中高等学校
NPO法人 ネット八代 理事長	年の宮・石町れんげの会	35号花の会
あいおい会	(株)なるみライフサービス	西肥自動車(株)東部営業所
アウトドア愛好会	柴田町内会	草場工務店
イオン九州(株) サンリー・ジャスコ菊陽店	九州ガス(株)	大栄開発(株)
風の館 塩屋かぜの会	NPOおおむらサイズ協議会	中村造園(株)
水前寺の会	建設サービス(株) 長崎営業所	(株)山口組
隈部会計事務所	おおむら夢の花実行委員会	(株)西肥緑化土木
地域ボランティア	大村小学校区子ども会 育成連絡協議会	県道愛護団体下寺区
並木樹街道守るボランティアの会	かたまち保育園保護者会	平戸市商工会
南部市民の会	(株)琴花園	松浦市福鷹商工会鷹島支所
氷川せせらぎの会 会長	大村商工会議所	門田建設株式会社

各県会議の道守団体一覧

※順不同

森永建設(株)	唐津土建工業(株)	大牟田市民憲章推進委員会
基山会	イオン九州(株)ジャスコ江北店	九州中部商工連合会
葉隠会道守部会	イオン九州(株)イオン唐津店	道守柳川ネットワーク
(株)丸福建設	有明の海をまもるふれあいの会	西宮永老クラブ連合会
呼子大橋「橋守」の会	花物語シンボルロード編実行委員会	老人クラブ柳川連合 柳河支部
清田 勝	大財フラワーロード	柳河小学校区婦人会
個人会員 5名	高伝寺フラワーロード	柳川市観光協会
道守長崎会議	観興花づくり同好会	柳川商店街振興組合
NPO法人 道守長崎	嘉瀬フラワーロード作戦会議	沖端商店会
ロードスターズ	吉野ヶ里町社会福祉協議会 (ボランティア連絡協議会事務局)	沖端地区婦人会
長崎大学 環境科学部	河内やまびこ会 (株)牟田林業緑化	柳川市婦人会 西宮永支部
長崎大学工学部 インフラ長寿命化センター	(株)大島組	柳川市立柳河公民館
(一財)長崎ローブウェイ・水族館	浜崎みちぐさ会	柳川市立城内公民館
竹友会	松原を守る会	柳川市立矢留地区公民館
西日本菱重興産(株)	桜並木の会	沖端地区老人クラブ
(株)長大 長崎事務所	湯の里会	袋町町内会
うまちかプロジェクトチーム (有)十字屋(バニー)	岡口(城山)みちぐさ会	柳川高等学校インターアクトクラブ
扇精光(株)	平原みちぐさ会	柳川市立 柳城中学校
(一社)長崎県産業廃棄物協会	和多屋別荘	福岡県立 伝習館高等学校
(株)西海建設	NPO法人 技術交流フォーラム	杉森高等学校
長崎街道ネットワーク	NPO法人 レインボー七つの島連絡会議	個人会員 46名
(協組)長崎卸センター	武雄木曜会	道守佐賀会議
(株)ホンダ四輪販売長崎	塩田職人組合 哲建築設計士事務所	NPO法人活気会 (株)三原建築設計事務所)
(株)クリーンマット	(有)エコプラン	ロードネット佐賀
(一社)長崎県建設業協会	(株)百花園	道守佐賀会議 副代表世話人 牧瀬杏会
復建調査設計(株) 長崎支社	東島電気工事(株)	そうじの会(多久の未来を創る会)
NPO法人 長崎街道松並復元会	高田電機(株)	(有)橋本建設

各県会議の道守団体一覧

※順不同

旭建設(株)	みやざきフラワーロードネットワーク	(有)ゆふいん道の駅
高遊塾	宮崎空港ビル株式会社	ボランティアグループ30
NPO高城歴史文化のまちづくりフォーラム	日南海岸活性化協議会	(株)大分銀行
飛石花づくりボランティア会議	(株)九南	しみずVO倶楽部
(株)松澤組	サンフラワー宮崎オープンガーデン	個人会員 34名
(有)クリエイト	NPO法人 みやざき子ども文化センター	道守みやざき会議
延岡市地域婦人連絡協議会	川南町平田長寿会	橘通りフラワーロード推進協議会
延岡アースデイ実行委員会	ホタル会	北川IMAK(みちもりをあきらめない会)
(一財)みやざき公園協会	宮崎みなみ生活ロード女性の会	宮崎大学 工学部
(株)工藤興業	道づくりを考える北方女性の会	(株)ホテルマリックス
荘内商工会 女性部	日之影町の道づくりを考える女性の会	SIESTA(シエスタ)
みまもり隊	道の駅フェニックス	株式会社宮崎産業開発
日向測量設計(株)	西米良村越野尾婦人会	ひかり児童館
日新興業(株)	チームM。	株式会社橘百貨店
串間のみちを考える女性の会	(株)馬原造園建設	日本道路(株) 宮崎営業所
THE SWEEPERS 宮崎	宮崎駅前商店街振興組合	希望ヶ丘ボランティア会
個人会員 18名	NPO法人 きよたけ郷ハートム	鶴戸山をかつとしやる協議会
道守かごしま会議	(株)アイロード	上三財「堂山地区商店会」
薩摩川内市商工会女性部	(株)内山建設	大堂津平成会
NPO法人 きらり	NPO法人 宮崎文化本舗	道の駅 北川はゆま
道の駅 長島	西日本高速道路(株) 延岡高速道路事務所	道の駅 青雲橋
新町自治公民館	(株)くらこん	道の駅 山之口
薩摩街道保存会	松尾女性部ひまわり会	道の駅 都城
国道維持管理・コミュニケーション型ワークショップ協議会	諸塚村商工会 女性部	道の駅 酒谷
まちの駅いずみ異業種会	日知屋中央商店会	道の駅 なんごう
(株)大進 薩摩川内支店	南郷商工会 女性部	(株)別当設計
ハーブガーデン 花ぴあ	小松地区ボランティア団体	河野まちづくり計画事務所

各県会議の道守団体一覧

※順不同

NPO法人 自立支援センター大分	個人会員 10名	日向街道顕彰会
きつき並木街道100人衆	道守大分会議	フォトクラブ
大分県会脊髄損傷者の会	ゆふいんFAMILY	豊後街道滝室坂の会
日田市観光協会	顕徳町老人会デウスクラブ	益城まちおこし塾
佐伯市観光協会	蒲江町道づくりを考える女性の会	まちの駅 肥薩おれんじ鉄道日奈久駅
清末塗装(株)	別大マイツリー会議	まっちゃ活かそう会
(有)ニード	中九州横断道路 早期完成を願う女性の会	松橋ポトスの会
豊の海 菅生支部	(株)野村建設	湯浦活性化協議会 代表
ゆふいん湯の坪街道デザイン会議	(株)原田土木	寄ろ会みなまた
(株)東洋技術	(有)出野建設	下町惣門会
(株)高山組	(有)後藤建設	熊本の道を語る女性の会
(福)わかば会	NPO法人 NPO観光コアラ	深川フラワーズ
(株)サンヨーオーエー大分	(株)コアラ	道の駅 たのうら
NPO法人 アイラブグリーン大分	ボーイスカウト大分第1団	道の駅 有明リップランド
(株)木元電設	イオン九州 パークプレイス大分店	道の駅 大津 夢工房熊本文化の森
九州環境管理(株)	生石港町港友会	道の駅 小国ゆうステーション
(株)秀峰	(株)マリーンパレス 水族館うみたまご	道の駅 きくすい
(株)関屋組	いきいきサロン二十日会	道の駅 旭志ほたるの里
家庭倫理の会	下白木サロン	道の駅 坂本・広域交流センター さかもと館
長幸建設(株)	平山産業(株)日田支店	道の駅 泗水
(株)平和建設	日田市田島1丁目自治会	道の駅 不知火
(株)友岡組	日田北中ボランティア	道の駅 清和文楽邑
COLORS CREATE	天神小杉ボランティア	道の駅 波野 神楽苑
竹田市立菅生小学校	宇佐国見高規格道路整備促進女性の会	道の駅 通潤橋
あさじアートロード	おおの女性の会	道の駅 七城メロンドーム
菅生地区公民館ボランティアクラブ	みちの会	道の駅 かほく小栗郷
新成建設(株)	障害者自立情報センター	道の駅 竜北

道守を支援して頂く賛助会員の皆様（団体・企業） ※順不同

NTTインフラネット株式会社 鹿児島支店	九州電力株式会社	一般社団法人九州地域づくり協会
扇精光株式会社	建設サービス株式会社	株式会社西日本新聞社
株式会社荻島組	長幸建設株式会社	九州国道協会
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	西日本電信電話株式会社	福岡県道路協会
鹿児島土木設計株式会社	西日本電信電話株式会社 熊本支店	福岡市道路利用者会議
川田建設工業株式会社	西日本電信電話株式会社 鹿児島支店	一般社団法人福岡県建設業協会
川田工業株式会社九州営業所	一般社団法人プレストコンクリート 建設業協会九州支部	佐賀県道路愛護協会
九建設株式会社	株式会社高山組	一般社団法人佐賀県建設業協会
株式会社九州開発エンジニアリング	みちを考える会	長崎県道路協会
九州建設コンサルタント株式会社	朝日開発コンサルタンツ株式会社	一般社団法人長崎県建設業協会
株式会社九州ソイルベスト	株式会社アジア技術コンサルタンツ	熊本県道路利用者協会
九州地区道路利用者会議	株式会社アップス	一般社団法人熊本県建設業協会
九州みちの会	株式会社安部日鋼工業九州支店	大分県土木建築協会
株式会社九南	いであ株式会社九州支店	一般社団法人大分県建設業協会
株式会社橋梁コンサルタント福岡支社	ウエノ・コンサルタント株式会社	宮崎県道路利用者協議会
株式会社ケー・シー・エス九州支社	烏城塗装工業株式会社	一般社団法人宮崎県建設業協会
株式会社建設環境研究所九州支社	株式会社エスイー九州支店	鹿児島県道路利用者協議会
株式会社建設技術研究所九州支社	NTTインフラネット株式会社 福岡支店	一般社団法人鹿児島県建設業協会
株式会社建設技術コンサルタンツ	NTTインフラネット株式会社 熊本支店	一般社団法人日本道路建設業協会 九州支部

各県会議の道守団体一覧 ※順不同

NPO法人 エコ・リンク・アソシエーション	健勝快	田島アクション倶楽部
道の駅 いぶすき 彩花菜館(さかなかん)	ガーデンラウムシバ	長島町商工会女性部
菜の花商工会	株式会社満留建設	川薩法人会女性部
南九州市商工会 知覧支所女性部	中央テクノ株式会社	鶴の町商工会女性部
指宿市宮ヶ浜自治公民館	鹿児島トヨタ自動車(株)	荷馬車組合
NPO法人 坊津やまびこ会	(株)建設技術コンサルタンツ	(株)浜畑組
NPO法人 プロジェクト南からの潮流	隼人宮内会	永吉町内会
個人会員 10名	いきいき坂美会	草牟田通り会
	中道二自治会	コアアツ工業(株)
	鹿屋市札元商工親睦会	新上橋電車通り会
	ばら通り220(札元地区協力会)	鹿児島「橋の日」推進協議会
	たるみずおりづる	中央地区商店街振興組合連合会
	垂水市協和公民館	NPO法人 桜島ミュージアム
	打馬商工同友会	NPO法人 かごしま探検の会
	大始良経済文化同友クラブ	いづろ商店街振興組合
	北田・大手町商店街振興組合	栄門通り会
	鹿屋本町一番商店街振興組合	照国神社表参道通り会
	株式会社きたやま	あいらふるさとネットワーク
	郷之原夢楽づくり協議会	ウイメンズ隼人
	ウエノ・コンサルタント(株)	鹿児島国際化推進協議会
	深川むらづくり連合会 (鬼追いの郷の会)	伊敷町通り会
	NPO法人 三方良	始良市立加治木小学校
	鹿屋たばこ販売協同組合女性部	まちの駅宇宿 宇宿商店街振興組合
	大黒グループ	薩摩街道めぐり隊
	曾於市商工会女性部財部支所	鹿児島県商工会連合会
	佐藤建設株式会社	霧島プロジェクト
	松清産業(株)	株式会社萩原技研

協賛いただいた企業・団体一覧

※順不同

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	岩崎建設 株式会社
(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社 ガイアート T・K 九州支店
株式会社 長大 福岡支社	株式会社 熊谷組 九州支店
株式会社 長大 長崎事務所	株式会社 福山コンサルタント
八千代エンジニアリング 株式会社	株式会社 宮崎産業開発
株式会社 建設技術センター	株式会社 ヤマックス
興和道路 株式会社	株式会社 ケー・シー・エス
株式会社 総合技術コンサルタント	新日本技研 株式会社 福岡支店
株式会社 東京建設コンサルタント	株式会社 東亜コンサルタント
日本工営 株式会社 福岡支店	西松建設 株式会社 九州支社
長谷川トラフ 株式会社	日本道路 株式会社 九州支店
株式会社 馬渡商会	福田道路 株式会社 九州支店
	株式会社 ヤマウ

道守を支援して頂く賛助会員の皆様 (団体・企業)

※順不同

範多機械 株式会社 福岡営業所	宅島建設 株式会社	株式会社 建設技術センター
株式会社 ピーエス三菱	株式会社 玉の湯	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部
株式会社 ピーエス三菱 九州支店	株式会社 地域科学研究所	コーアツ工業 株式会社
株式会社 日高時計本店	株式会社 長大 福岡支社	株式会社 駒井ハルテック 九州営業所
株式会社 福山コンサルタント	株式会社 東亜コンサルタント	株式会社 西海建設
株式会社 富士ピー・エス	東急建設 株式会社 九州支店	三州技術コンサルタント 株式会社
株式会社 ぶぜん街づくり会社 (「道の駅」豊前おこしかけ)	株式会社 東京建設コンサルタント 九州支社	昭和コンクリート工業 株式会社 九州支店
復建調査設計 株式会社 九州支社	株式会社 都市開発コンサルタント	新成建設 株式会社
前田建設工業 株式会社 九州支店	株式会社 友岡組	新日本技研 株式会社 福岡支店
株式会社 丸福建設	株式会社 名村造船所 福岡営業所	株式会社 新日本技術コンサルタント
株式会社 水野建設コンサルタント	南生建設 株式会社	株式会社 センコー企画
株式会社 みともコンサルタント	西日本技術開発 株式会社 土木管理部	株式会社 総合技術コンサルタント 九州支店
宮崎空港ビル 株式会社	西日本新聞エリアセンター連合会	そうじの会 (多久の未来を創る会)
株式会社 宮崎産業開発	日鉄鉱コンサルタント 株式会社 福岡支店	農事組合法人 そよかせ館 (「道の駅大和」)
宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所	日本工営 株式会社 福岡支店	大日コンサルタント 株式会社 大阪支社
株式会社 ヤマウ	一般財団法人 日本造園修景協会 大分県支部	大日本コンサルタント 株式会社 九州支社
株式会社 ヤマックス	株式会社 野村建設	大福コンサルタント 株式会社
個人会員 75名	葉隠会道守部会	太陽技術コンサルタント 株式会社
	株式会社 萩原技研	瀧上工業 株式会社